心连心
Heart to Heart

心連心：中国高校生長期招へい事業

第8期 報告書

平成25(2013)年8月27日～平成26(2014)年7月19日

【帰国前研修　浅草にて】

独立行政法人　国際交流基金　日中交流センター

心連心：中国高校生長期招へい事業

第8期 報告書

目　次

1. はじめに …… 1
2. 事業紹介 …… 2
3. 生徒名簿 …… 3
4. アルバム …… 4
5. 帰国を前に ー作文集ー …… 12
6. メッセージ …… 40
7. 八期生に聞きました！ …… 45
8. 八期生を受け入れて …… 52
9. あとがき …… 56

はじめに

平成25年8月27日に来日した「心連心：中国高校生長期招へい事業」の第八期生は、平成26年7月19日、11ヶ月の研修を終え、無事帰国いたしました。

全国26都道府県における研修期間中は、受入校の皆様をはじめ、ホストファミリーの皆様、地域の皆様など、多くの方々に暖かく見守っていただき、数々の貴重な体験をさせていただきましたこと、お礼申し上げます。

日本滞在中、八期生は各地でさまざまな経験をしてきました。この報告書には、不安や期待、楽しかったことや辛かったこと、一段成長したところやこれから目標にしようと考えたこと、それぞれの思いが詰まっています。その中でとりわけうれしく感じられるのは、八期生が滞在中に日本を理解しようとする過程で、自分自身に向き合おうとする姿勢が強く現れていることです。生まれ育った社会と、文化や価値観が違う世界に接する経験から、「自分とは？」という問いかけをみんながしています。それこそが異文化交流の意義であり、この研修の一番の成果です。この研修を通して得たものを大事にして、さらに成長していくことを期待しています。

本事業は今期で8年目を迎え、第一期生から第八期生までの研修修了者は267名に達しました。平成26年春には研修修了者の100名近くが就職や留学のために日本に滞在中です。また、中国国内で就職や進学をした修了者も、それぞれの場所で日本と中国の橋渡し役として活躍しています。

日中関係は必ずしも順調な時期ばかりではありませんが、どのようなときであっても将来の日中交流を担う青少年の間で交流を深め、信頼感を形成することが大切であるという点においては、日中双方とも意見が一致しております。国際交流基金日中交流センターといたしましては、今後も引き続き、本事業を柱とした両国の青少年交流の促進、交流を担う人材の育成に努めて参る所存です。

縁あって第八期生の研修にご協力いただきました関係各位におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど、謹んでお願い申し上げます。

国際交流基金日中交流センター
所長　　阿南　惟茂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の直接選抜を受け、本事業の第八期生として2013年8月末より来日した中国高校生30名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生達との絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直接に交流し、心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

【実施概要】

◆期　間

2013年8月27日～2014年7月19日

◆実施体制

中国国内での招へい生選考…国際交流基金と中国教育部が共同で実施
日本国内における受入れ…受入校と国際交流基金が共同で実施

◆招へい生徒

全30名（女子20名、男子10名）
平成25年度は、北京市、河北省、山西省、遼寧省、上海市、江蘇省、福建省、山東省、河南省、湖北省、広東省、四川省、陝西省より選抜

◆国内受入地

北海道、岩手県、秋田県、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、福井県、愛知県、三重県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、福岡県、大分県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

◆経費負担

学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁

◆企業協力

特別協力：日本航空株式会社
協　　力：株式会社資生堂、卡西欧（中国）貿易有限公司

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第八期生名簿

No.	氏　名	氏　名	性 別	出身地	受入高校	都道府県
1	王　若寒	WANG Ruohan	男	北京市	仙台育英学園 秀光中等教育学校	宮城県
2	遅　宇希	CHI Yuxi	女	北京市	和歌山県立那賀高等学校	和歌山県
3	周　千荷	ZHOU Qianhe	女	河北省	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	兵庫県
4	尹　柏橋	YIN Baiqiao	男	山西省	敦賀気比高等学校	福井県
5	劉　牧言	LIU Muyan	男	遼寧省	長野県長野西高等学校	長野県
6	張　天鴻	ZHANG Tianhong	男	遼寧省	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道
7	楊　沐溪	YANG Muxi	女	遼寧省	大阪府立大手前高等学校	大阪府
8	劉　洪波	LIU Hongbo	男	遼寧省	立命館守山中学校・高等学校	滋賀県
9	遇　城昊	YU Chenghao	男	遼寧省	立命館宇治中学校・高等学校	京都府
10	崔　舒淵	CUI Shuyuan	女	遼寧省	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県
11	李　穎超	LI Yingchao	女	遼寧省	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都
12	伏　詩宣	FU Shixuan	男	上海市	岩田中学校・高等学校	大分県
13	束　親欣	SHU Qinxin	女	上海市	神村学園高等部	鹿児島県
14	蔡　蘊多	CAI Yunduo	女	上海市	岐阜県立岐阜総合学園高等学校	岐阜県
15	譚　偲玥	TAN Siyue	女	江蘇省	沖学園高等学校	福岡県
16	朱　宇軒	ZHU Yuxuan	男	江蘇省	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県
17	藍　浩	LAN Hao	男	福建省	岡山県共生高等学校	岡山県
18	張　婷婷	ZHANG Tingting	女	福建省	三重高等学校	三重県
19	姬　楠楠	JI Nannan	女	山東省	広島市立舟入高等学校	広島県
20	喬　金迪	QIAO Jindi	女	山東省	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府
21	王　文嘉	WANG Wenjia	女	河南省	横浜市立みなと総合高等学校	神奈川県
22	盧　曦子	LU Xizi	女	湖北省	鳳凰高等学校	鹿児島県
23	李　伊頡	LI Yidi	女	湖北省	盛岡中央高等学校	岩手県
24	韋　暁晴	WEI Xiaoqing	女	広東省	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県
25	張　倩如	ZHANG Qianru	女	広東省	奈良市立一条高等学校	奈良県
26	周　潔鈺	ZHOU Jieyu	女	広東省	千葉市立稲毛高等学校	千葉県
27	鄭　良珏	ZHENG Liangjue	男	広東省	秋田県立秋田北高等学校	秋田県
28	劉　星妤	LIU Xingyu	女	四川省	光ヶ丘女子高等学校	愛知県
29	朱　可萌	ZHU Kemeng	女	四川省	熊本学園大学付属高等学校	熊本県
30	劉　佳源	LIU Jiayuan	女	陝西省	桜丘高等学校	愛知県

アルバム：第八期生の1年間

来日研修 in 東京 2013年8月27日～31日

8月27日に来日した第八期生は、まず東京での研修からスタートしました。日本で生活する上での心構え、日本人特有の考え方や生活習慣等を学ぶとともに、中野区国際交流協会のご協力のもと、実際に東京の街を歩いて日本を体感しました。また中国大使館教育処と外務省を表敬訪問し、科学技術館では日本の先端技術について触れました。研修最終日の来日歓迎レセプションでは、第八期生は多くの方からの励ましを受け、これから始まる留学生活に思いを馳せながら全国各地へと旅立って行きました。

仲良し八期生★

ようこそ日本へ！

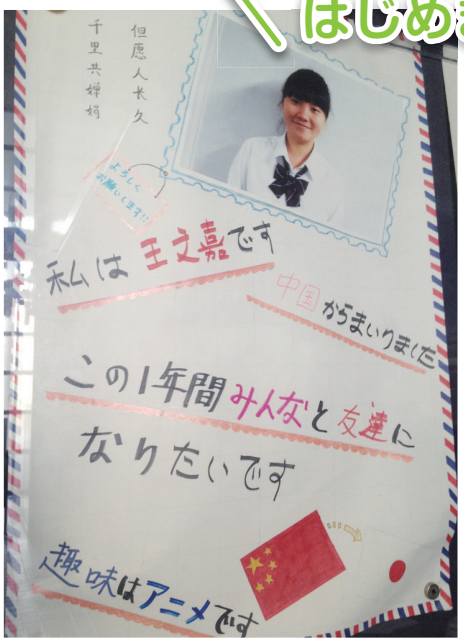
心連心の先輩も
応援してるよ！

先生、1年間お世話になります！

これから1年
頑張るぞ～！
中国高校生長期招へい事業
第八期生　来日歓迎レセプション
特別協賛 日本航空株式会社
カシオ計算機株式会社

留学生活：私たちの日常

期待を胸に全国各地へと飛び立った第八期生を待っていたのは、日本の友達や先生、ホストファミリーの皆さん。多くの方々に見守られながら留学生活をスタートしました。日本での暮らしを通じ、第八期生はたくさんの“初めて”を経験。高校生活では日本語を使っての勉強やテスト、部活動……中国とは異なるところに戸惑いつつも様々なことにチャレンジをし、友達との間に固い友情を育んでいきました。更に、ホームステイを通じて、日本でも家族の温かさを感じることができました。



はじめまして！

ライブデビュー！

スクールライフ♪

甲子園の熱気を体験♪

寮の仲間たちと！

ENGLISH
CLUB 1st

初めての電車通学

オレンジ
アップル
レモンライム
コーラ

文化祭！

針持ニコニコ手作り ひなまつり
日本のお父さんと！

家族のぬくもり…

中国のことを
日本の皆さんに紹介！

除夜の鐘を
ついたよ！

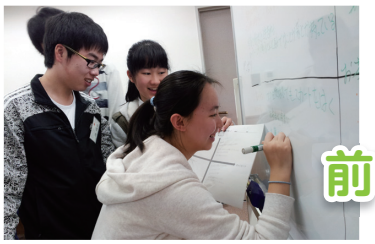
UJI

中間研修 in 大阪・京都　2014年2月1日～5日

来日してから半年経った２月、大阪・京都にて５日間の中間研修を行いました。今回の研修は、前半の留学生活を振り返り、後半の目標を立てることが目的です。同じ立場の仲間と嬉しかったことや悩みを共有し、これからもっと努力すべき点、頑張りたいところ等を発表し合いました。

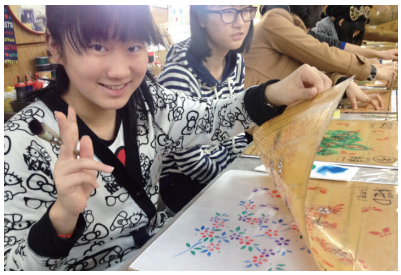
さらに、研修の１つとしてグループでの調理実習も体験。地元ボランティアにご協力いただき、カレーライスと中華料理一品を一致団結して作りました。

第八期生は、留学生活をより充実したものにしようという気持ちを抱いて、研修会場を後にしました。



前半の留学生活を振り返り！

心静かに
写経体験…



自分だけのカップラーメンを作りました★

後半の目標を発表！

留学生活後半も頑張るぞ～！

帰国前研修 in 東京　2014年7月16日～19日

日本の各地で留学生活を送ってきた第八期生は、ついに帰国を迎えることとなりました。

7月16日、お世話になった皆さんと別れ、一同は東京に集合。最後の総括となる「帰国前研修」を行いました。日本の大学進学についての講義や早稲田大学訪問、また江戸東京博物館、東京スカイツリーを見学しました。

帰国前報告会では、代表生徒による学校生活の体験発表を行い、修了証書を手にした彼らの達成感あふれる表情が印象的でした。そして、7月19日、11ヶ月間の思い出を胸に、母国・中国へと旅立っていきました。

～修了証書授与～

♡心連心の輪♡

ホストファミリーや友達と涙のお別れ…

この１年間を忘れません！！

振り返って見る僕を変えた一年間

WANG Ruohan
仙台育英学園 秀光中等教育学校／北京市月壇中学
王　若寒

中国に帰る日が段々近づいてきました。よく考えると日本に来てから、もう一年間ぐらい経ちました。この一年間で色んなことが起きました。色んなものも習いました。この一年の時間で僕は変わりました。、僕にとって一番重要な一年の間だと思います。

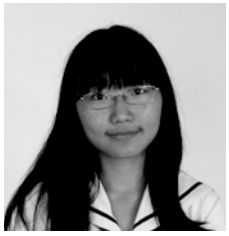
最初に日本に来た時のこと、今でもはっきり覚えています。その時の僕はわがままで、考え方や行動など未熟な人でした。初めて日本に来て、一人で外国で生活することによって僕は変わりました。日本で一人暮らしすることによって僕は自立という言葉が分かりました。日本の学校で部活動をやることによって僕はチームという言葉が分かりました。日本人の友達を作ることによって、僕は「思いやり」という言葉も分かりました。この一年間で、楽しことや辛いこと、悲しこともありましたけど、これらの全てが僕にとって一番大切な経験だったと思っています。この一年で習ったことは全部、中国でにはできないことだと僕はそう思っています。この一年間で僕の心が強くなりました。そして一年間で僕の考え方や行動もどんどん成熟したと思っています。

今、一年間を振り返えりながらよく考えてみると、一年という時間は結構速かったです。一年間はとても短くて、僕にとって日本に来た時のことは昨日のことみたいです。「楽しい時間はいつも速い」って父さんが昔言っていましたが、今回は僕にもそれを実感させてもらいました。

日本に留学することに選ばれたという知らせが届いた時の喜びは今でも忘れません。その時の僕には夢にも思っていませんでしたが、まさか自分が選ばれたとは……。知らせをもらった時のことはまるでおとといみたいにはっきり覚えています。

でもこの一年間は嘘みたいに一瞬に過ぎてしまいました。日本人の友達と一緒に過ごす時間は、そんなに楽しくて短いと感じるとは、最初の僕には分かりませんでしたが、本当に楽しい毎日でした。この広い世界の中で日本を選んだのは本当に良かったと思います。もし日本に来なかったら、僕はこの世界にはこんなに面白いことがあるとは分からなかったと思います。

今回のこの活動が終わったとしても、僕は絶対また日本に来ます。来年も再来年も日本に来たいと思います。文化や友情、人々も国境がない。僕たちは国境を超える橋となり、両国の人々に道を開く、両国の人達が分かり合えるため、僕たちはこれからも頑張り続けたいと思います。



わたしにとっての異聞と異文化

CHI Yuxi
和歌山県立那賀高等学校／北京月壇中学
遅　宇希

「遅 宇希と申します。中国の北京から参りました。一年間どうぞよろしくお願いします。」

初めてのクラス、みんなの前で緊張しながら、自己紹介したことはまるで昨日のことのようです。時間が経つのは本当に早いです。（後にこの自己紹介は友達に「かたすぎー」って言われました。今でもクラスで思い出してはみんなで大笑いですー！ T＾T）

関西弁？！

まず関西と言えば、関西弁！これには最初大変苦労しました。なぜなら、私は中国で美しい標準語を学んできました。初めてのクラス、私の日本語が通じない、しかも、理解できない、まるで宇宙に来たかのような錯覚に陥りました。一年間、この教室でやっていけるかなと、とても不安を感じました。

でも、友達は暖かく私をクラスメートとして、受け入れてくれました。なにも分からない私に優しく親切に接してくれたおかげで、徐々に私の不安もとれてきました。生活に慣れていきつつ、和歌山弁も理解でき、話すこともでき、入学当時からいてたかのようにクラスメートの一員として溶け込んでいきました。

日本人＝静か？？

日本に来る前に、「日本人がまじめで、静かだ」というイメージを持っていましたが、実際　日本に来て、女子高校生の中に入って、そのイメージが完璧に払拭されました。クラスの友達みんなはとても元気いっぱいで、わたしはいつも圧倒されるばかりです。

(♧◑ω◑)☞　先輩♡　☜(◐ω◐♧)

日本では上下関係が厳しいと思います。中学や高校の間は1・2歳しか離れていないのに、特に運動部では上下関係がはっきりしています。言葉遣いを丁寧に変えるだけではなく、1年生が早めに行って準備しなければなりません。でも、こんな厳しい上下関係の下、先輩と後輩の間に特別な友情を持っています。先輩からいろいろ教えてくれて、アドバイスもたくさんもらいます。中国で上下関係がありませんが、先輩とあまり話すことがありません。

私は日本の上下関係の厳しさに、先輩と後輩の親密さに驚きました。

兄弟＝けんか＋仲直り？？

中国では一人っ子政策なので、私は兄弟がいません。日本に来て、ホストファミリーが子供3人で、毎日けんかしていても、すぐ仲直りします。長女がしっかりしていて、次女が元気いっぱいで、長男が二人の姉に威圧され、小さくなっています。兄弟生活は私にとって新鮮で、楽しいです。それにホストママは隣近所のことを気にせず、毎日子供たちに怒鳴っています。ママの雷が落ちる前に、私はそーっと部屋に退散します。

友達＝宝物

日本で出会った友達みんな親切で、優しくしてくれました。

那賀高校の体育の授業は選択制で、自分で種目（バレー、サッカー、ダンス、剣道……）を決めます。さらにわずか10分の休憩で着替えて移動するのは大変です。一番最初の体育の授業の時は、私が迷わないように、先に移動場所まで連れていってくれ、それから自分の移動場所に行きました。友達が急いで走っていく姿を見て、とても感動しました。また、お弁当を食べる時、日本の高校生はどういうわけかとても食べるのがはやいです。私がまだ食べ終わっていないことを知った友達は食べるスピードをゆっくりにしてくれました。もう少ししか残っていないのに、そのお弁当をゆっくりゆっくり、私の食べるスピードに合わせて食べてくれて、一緒に食べ終わるようにしてくれました。

このような出来事がまだいっぱいあります。

日本に来てこのような体験ができると思いませんでした。私を優しくサポートしてくれた心連心の先生方、いつも支えてくれた中国の家族、楽しく過ごせてくれたホストファミリー、元気をいっぱいくれた友達たち、私に関わってくれたすべての方々に感謝します。

残り少ない一ヶ月を悔いがないように努力し、日本での友達との交流もより一層大切にして、日々充実させたいと思っております。

心臓を捧げよ！

ZHOU Qianhe
兵庫県立芦屋国際中等教育学校／石家荘外国語学校
周　千荷

夢はいつの間にか一休さんが呼び立てた「さよちゃん！」のところにとどまっていました。

小さい頃の大好きな「一休さん」の中で、たぶん私にとって一番羨ましいキャラクターは小夜ちゃんのほかにいないでしょう。だから毎日毎日小夜ちゃんの髪型のように自分でまじめにくくってから幼稚園に行って、友達や先生に「あ！すっごく小夜ちゃんに似ているよ！」というような褒め言葉を楽しく待っていて、「いつか本物の小夜ちゃんになれるといいなあ」とずっと心の中から望んでいました。

たぶん、日本へ来ることを決心したのは、あの時ではないでしょうか。

最近ずっと自分の答えを探しています。何のために日本へ来たのでしょうか、この私が一体何を求めているのでしょうか。上手な日本語？それとも新しい運命？「せやねー、なんでやろう。」ほら、いつの間にか関西弁もペラペラになりました。

一体何を求めていますか。ここでの幸せな高校生生活ですか。毎朝校門の前でいつも笑顔で生徒たちを迎えている校長先生に挨拶したり、学校で友達と今日のニュースについてしゃべったり笑ったりして、先生たちとどんどん仲良くなってときどき冗談とか言ったり、困ることがあったらいつも担任の超優しい由先生と相談したりします。お家に帰ったらホストファミリーと色々話して、不安なときにいつもホストママから安心できる言葉を聞いて、毎日も楽しく過ごしています。本当に幸せな生活ですよね、このようないい生活は毎日私を待っています。しかし、ちょっと何か失ったような感じがするけど、どうしてでしょうか。

足りないものは一体何でしょうか。来る前に自分で立てた目標を実現したいのですか。ならばあちこち駆け回っても大丈夫でしょうか。かなり前からずっと行きたかった鳥取県にあるコナンの町へ見に行きたいだけで、朝4時半に起きて5時間半ぐらいJRに乗って、何回も乗り換えてからせっかく着いたのに2時間しか滞在できなかったので、写真も撮り終わらなかったのに急いで駅まで走って、5時間半ぐらいかかってから家に戻って、これでもかまいませんか。「せっかくの奈良なので楽しもう」と思っただけで、一日中友達とずっと見学したり走ったりして、最後バスの中で倒れるほどの熱中症になってもしんどくないのでしょうか。京都で大雨に逢ったけど、目の前の素晴らしい景色のためにうっとりして、傘をささずにそのまま立って、変な目つきで見られても心配しませんか。本当に疲れると感じていませんか。

たぶんこれこそ私の一番ほしいものでしょう。歴史文化や名勝旧跡の輝いている光を浴びて、盛り上がっている雰囲気の中に酔いしれて、もう抜け出すことができないほどの感情、これのために、私がここにいるのでしょう。京都の嵐山で仲間と天龍寺や平安神社で写真を撮りながら紅葉を楽しんでいて、ほら、あの山は秋のときに紅葉が真っ赤になって、とても素晴らしい景色でした。よく友達が誘ってくれて、週末に一緒に神戸市の有名なハーブ園や異人館などのところへ遊びに行って、山の上で神戸市全体を眺めると、海や港とか本当にきれいで、遠くの島まではっきり見えます。それに七五三の時に隣の神社へ行って、微妙に風船をもらえて、子供のように興奮して風船と綿菓子を持って海のそばで歩いて、楽しく過ごしました。ほら、あの奈良で鹿と何かしゃべっている道に迷ってしまった子、大阪USJで何かの公演を見て笑っている子、みんなに中国のことについて教えている子、「ここに来て本当によかった！」彼女は今そう思っています。このような生活こそ私がずっと求めていたのではないのか。

実は今から考えると、私の小さい頃のあの望み、もう完璧に叶えましたよ。今はさよちゃんの時代よりももっと繁栄で、いろいろな体験もできるようになりました。だからこそ、この心連心のプログラムがありまして、私のような日本の文化に興味がある子たちを、その自分自身で日本の文化を感じられます。ですから、この一年間でいろいろお世話になった先生たちや、ホストファミリーの人々や、日中交流センターと国際交流基金のお世話になった先生たちに、必ず感謝の気持ちを持って、「皆さん、この一年間、ありがとうございました」と、言いたいです。

月日が経って、記憶がどんどん褪せてきて、私はもうあの幻のような夢を憧れている子ではありません。この一年間を経て、友人、知識、私はいろいろな大切なものを得ました。それにもう一つ大切なことは、私は今のようにこの日本文化の魅力の中に溺れていきたいです。そしてこれからも、日本のみならず、世界へ中国と日本の文化の独特な魅力を紹介したいと思います！だから私も今、「進撃の巨人」の中の兵士が巨人を全部駆逐するように誓った言葉を言いたいです！

願いをかなえるために、

心臓を捧げよ！

いろいろ

YIN Baiqiao

敦賀気比高等学校／太原市外国語学校
尹　柏橋

今朝カレンダーを見るともなしに見ると、もう6月7日になりました。「早いな」とおもい、昨日ここにきたらしい僕はもうすぐ中国に帰らなければなりません。日本でもう10ヶ月生活した、ということが信じられません。（さすが光陰矢の如しーー時間だ）

ところで、早すぎる時間と比べると、やはり生活の充実と自己能力の伸ばすということが強くかんじました。なぜかというと、まずは充実した生活を話したいです。

生活というと、寮に住んでいるから生活は全部学校生活と言ってもすぎません。まずはクラス生活です。毎日クラスで7時間の授業を受けて、昼ご飯は寮で食べるから、クラスメートと話す時間は授業の間の10分間しかありません。クラスメートといい友達にならないと思いきやの僕は今自分のクラスだけでなく、ほかのクラスでも友達をたくさん作りました。それは全部9月気比校祭のおかげです。気比校祭をきっかけに、クラスのみんなと一緒に文化祭のごみ箱を作ったり、ほかのクラスとリズムにのって団体のダンスを練習したりしました。日本にくるまえ、日本の女子はハニカムそうですが、来たらそんなことはぜんぜんありません。しかも、クラス女子みんなのおかげで、初めてきたハニカムな僕もだんだん明るくなってきました。（初めての一人留学生活、最高なスタート！）

次は部活動生活です。バスケ部に入るということにきめました。入ったばかりに、みんなの練習方法もゲームのルールも、そんなはっきりわからないので、みんなにいろいろ迷惑をかけました。そのとき、部長の松井さんと三上さんはいろいろ教えてくれて、僕と三人のチームになって、ずっと練習してきて、だんだん慣れました。日本しかない部活動を体験して、自己能力の伸ばすことだけでなく、チームワークも感じました。部活動の先生から教えてもらった一言、今までも忘れません。それは、バスケットボールはなんだかというと、それは「場助人球」です。これはたぶんバスケットボールの一番重要なものだと思います。（部活動生活は学校生活で一番明るい星だ！）

寮生活です。寮は心の港だと思います。寮母さんも先生も親のようで、いろいろお世話になりました。家の感じがあります。寮の友達もたくさん作り、特にテニス部のです。

お正月、10日間のホームステイ生活を送ってくれました。短かったですが、いろいろなところへ遊んだり、見学したりしに行って、大満足な体験でした。

ここで日本でお世話になった学校の先生方、友達、ホストファミリー、交流中心の先生方に感謝の気持ちを伝いたいです。本当にありがとうございました。みんなのおかげで、こんな楽しく、豊かな留学生活を送ってきました。あと1ヶ月、最後まで楽しんでいきましょう！

充実した留学生活

LIU Muyan

長野県長野西高等学校／東北育才学校
劉　牧言

時間はあっという間に過ぎましたね。帰国するまであと一か月しか残っていません。勿論、大変なこともたくさんありましたが、この一年間は本当に充実で有意義に過ごすことができたと思っています。今、私は初めの日本に来る前のことを思い出して、感じることがどんどん出てきます。この一年間で私は知らず知らずのうちに、いろんなところが進歩して、前よりずっと優秀な人間になれたと思います。

まず、私の日本語はうまくなりました。最初、わからない言葉がよく出て、交流は難しかったです。しかし、私は毎回わからない単語が出て来たら、必ず辞書を引いて、しっかり復習して、ホストファミリーの人も助けてくれましたので、日本語はだんだん上手になり、日本の生活に慣れるようになりました。冗談も言えるようになりました。

そして、私の性格は来る時よりずっと明るくなりました。一人で外国に住むことは私にとって初めてで、すごく緊張し、不安でしたが、私は積極的にクラスと班活の人たちと交流して、すぐに仲良くなれました。私は今回の経験から、人との付き合い方だけでなく、友達の作り方も学べました。私の将来の生活にも生かせると思います。

また、私は日本の文化を肌で感じて、いろいろなことを体験し、日本と中国の違う所と同じ所がわかるようになりました。この間、体育祭や合唱コンクールといった、いろんな日本でしかできないことに参加しました。その中で一番印象深いのは合唱コンクールです。みんなは二か月ぐらい前から一生懸命頑張って、毎日休みの時間を使って、しっかり練習をしたので、みんなの声はだんだん合わさるようになりました。比較的難しい歌でしたが、私のクラスは一位を取りました。私はこの合唱コンクールで、チームワークの重要性がわかりました。優勝できるクラスは絶対個人の能力が高いクラスじゃなくて、みんなの声が一番一つになるクラスだと思います。

この一年間、私が一番楽しかったと思うことは日本の友達がいっぱいできたことです。最初日本に来て、わからないことがいっぱいありました。日本語もあまりうまくしゃべれなかったけど、私は困ることがあるとき、みんなはいつも熱心に私を助けて、私がわかるまで丁寧に教えてくれます。一番感動したことはやはり友達と初めてお昼を食べたときです。その時、日本のみんなは私と互いに知らなかった状態でも、自発的に私に話しかけてくれ、私は“一緒にお弁当を食べましょうか”とさそわれました。今考えても、素晴らしいことだったと思います。

帰国するまであと一か月ですが、中国に戻るときに後悔がないように、油断せず、最後まで、有意義に締めくくりたいと思います。

奇跡の出会い

ZHANG Tianhong

立命館慶祥高等学校／東北育才学校
張　天鴻

北海道の夏がやって来ました。私の留学生活も残り僅か一ヶ月です。振り返ってみると、この1年間、奇跡のような素晴らしい出会いがあふれていました。

みなさんと出会って、よかった。家族のような三年I組との出会い。知識だけでなく、人の歩むべき道を教えてくださった先生方との出会い。素直に、謙虚に、爽やかに語りあった弁論部との出会い。音楽の美しさを一緒に味わったバンドとの出会い。一緒に生活してきた寮の仲間との出会い。家のぬくもりを感じさせてくださった恵庭のホストファミリーとの出会い。やさしく、笑顔で私の子どもっぽい質問に応えてくださった帯広のホストファミリーとの出会い。。。。。。すべての出会いは、一生のたからものです。今、感謝の気持ちを込め、みなさんに「ありがとう」と言いたいです。ある政治家がこう言いました。出会いを通して、自分の人生を変えるだけでなく、自分と出会った人の人生を変えることもできると。みなさんは私の人生を変えました。では、私はみなさんの人生を変えることができたでしょうか？

北海道と出会って、よかった。一年前の夏、自分の留学先が北海道だと知り、胸のドキドキを隠せませんでした。当時、私が持っていた北海道のイメージは、「ロマンチックの大地、北海道」でした。この1年間、みなさんのおかげで北海道の美しい景色を色々と見ることができました。賑やかな札幌、雄大な大自然の十勝、桜が美しい函館、情緒あふれる町並みの小樽。。。いずれもいい思い出として私のこころに残るでしょう。しかし、北海道は晴れ渡った青空だけではありません。色々な問題を抱えています。過疎地がだんだん多くなり、北海道は元気を失いかけていると言えるでしょう。第二の故郷、北海道のために、自分は何が出来るのかをこれから考えていきたいと思っています。

日本と出会って、よかった。初めて親の元を離れ一人暮らしする私にとって、日本は不思議な国です。日本を色々と観察し、考えることは、自分がこれまでの生活を見直すきっかけとなりました。日本人の真面目さ、思いやりを見習わなければなりません。そして、海外で活動する際に、言葉のニュアンスや生活文化の違いは外国人にとって、とても難しいものです。私にとっても例外ではなく、最初はけっこう苦労しました。しかし、苦しみがないと成長できません。日本がこんな試練を私に与えてくれました。どうでもいいやと諦めたい気持ちになったことが何度もありましたが、厳しい試練を乗り越え、自分の成長を確かに実感したときはなんと嬉しかったことでしょう。日本で得た経験は、これからの人生へと繋がっていくと私は信じています。

この一年間で、感謝しきれない程、素晴らしい出会いがたくさんありました。そして、一年が経った今、新たな自分と出会うことも出来ました！

最高な留学生活

YANG Muxi

大阪府立大手前高等学校／東北育才学校
楊　沐渓

知らず知らずのうちに、夏が来ました。去年のこの時期、私はまだ両親のそばにいて、毎日毎日同じような生活をしました。しかし、日本にいるこの一年間、毎日新しいことを学べて、新しい友達を作れて、とても充実でした。この一年間、ホストファミリーとの生活は、一生忘れない思い出です。そして、学校のみんなとしたことは、携帯のアルバムだけではなく、私の心にも深く残りました。

最初に日本に来たとき、私の気持ちはとても複雑でした。留学の楽しみと環境の変わりでの不安が混ざって、私はとてもおどおどしていました。今も覚えている、ホストファミリーと出会った最初の日。お母さんはとても優しい人です。そして、その日の晩ご飯はとてもおいしかったです。成（ホストファミリーの息子さん）はなんか話しにくい感じがあったけれども、一ヶ月ぐらい経ったあと、実際はとてもやさしくて、かわいらしい男の子だと分かりました。お母さんが勉強のことだけではなくて、生活とか人生についてのいろいろなことも教えてくれて、とてもありがたいと思いました。そして、お母さんが私にいろいろなところに連れていきました。高級なお茶会、富士山、歌舞伎など、わたしはさまざまな日本文化を体験しました。私はこの家にいっぱい愛情を感じて、とても幸せでした。

この一年間の学校生活は非常に充実でした。最初のとき、私はとても緊張していました。しかし、クラスメートたちはとてもやさしくて、私に話しかけました。私はすぐ友達を作りました。今考えたら、そのとき本当にとてもラッキーでした。休みのとき、私はいつも友達といろいろなところに遊びに行って、いろいろな写真を撮りました。八坂神社、清水寺、伏見稲荷など、京都と大阪の有名なところは大体行きました。ショッピングなら、絶対梅田に行って、いろいろな服を買った後、おいしいおいしいご飯を食べました。

学校の行事もとても楽しかったです。そして、中国の学校で体験できないことをいろいろ体験しました。部活に行って、みんなと一緒に絵を描いたり、小物を作ったり、自分のやりたいことをしました。コーラス大会の二週間前から、クラスのみんなと毎晩毎晩遅くまで練習して、疲れたときもあったけれども、みんなが非常にがんばりました。雨が降ったときもずっと練習し続けて、私はとても感動しました。学校でいろいろな友達を作って、そして、毎日とても楽しくて過ごせるのは本当に最高だったと思います。

両親と離れたこの一年間、私は自立して、成長したと思います。不安があったけれども、自分でがんばって、さまざまなことを解決できました。ホストファミリーと学校のみんなが私にいろいろ助けてくれて、私が間違っているときも許してくれて、本当にありがたく思います。これからの一ヶ月の生活も後悔しないようにがんばりたいと思います。

ありがとう、日本のみんな

LIU Hongbo
立命館守山中学校・高等学校／東北育才学校
劉　洪波

光陰矢の如し。だんだん暑くなってきました。もう一度夏の暑さを体感するときはそろそろこの一年間の留学生活の終わりと、私は知っていました。あっという間に、日本にいる時間は一か月間ぐらいしか残っていません。前後三つのホストファミリーと一緒に生活していたこと、そして学校のみんなと一緒に勉強していたこと、友達を作ったこと、部活をやったこと、これらは全部私の大切な思い出であり、一生忘れられない宝です。

日本に来たばかりの私ははじめて親から離れて生活することに不安を持っていた、ただの少年でした。日本に対しての理解は本や新聞、テレビニュースから見たことに過ぎませんでした。日本での生活に対しての期待と不安は一瞬も止まったことなく、私の心の中で戦っていました。

日本の学校に入って勉強することになった私は、すぐには慣れませんでした。身の回りの人と日本語で交流するのはちょっと怖かったです。そのせいですぐには友達ができませんでした。私はバスケ部に入ってみんなと一緒に練習していました。日本の生徒たちの部活動に対しての情熱は、私の想像を超えてびっくりしていました。

たとえ部活に入っても、初めての時はなんだか私は歓迎されていないような気がしていました。みんなとの交流も足りなくて、頑張ってチームに入ろうとしても受け入れられませんでした。一方、二つ目のホームステイ先に移りましたが、 新しい通学路は一時間半以上もかかっていました。通学だけですごく大変でした。でもホストのみんなは明るくて優しかったです。同時に私を含めて４人の留学生を受け入れていたホストのお母さんは、「うちで住むことで、将来世界のどこの人でも仲良く交流できるようになったらいいな」と私に言いました。学校での生活もだんだん安定して、通学にだんだん慣れて、一緒に食べたりする生徒もいましたが、友達といえる人は同じ留学生だった二人と何人かの先生に過ぎませんでした。

そんな日々が続いて、中間研修が来ました。皆と再会して研修することで自分の目標をもう一度見直しました。そして中間研修が終わった一か月の後、突然もう一度引越しすることになった私は今のホストファミリーに出会えて幸運でした。新学期が始まると同時に私は引越ししました。そして新たな部活に挑戦して書道部に入りました。

新しいホストは、家族集まって食べたりしゃべったりする機会が多いです。じいちゃん、ばあちゃんがいて、ホストのお父さんとお母さんが働いて、上に二人の兄さんがいる素敵な家庭です。新しいクラスも前よりも暖かく感じています。このような環境で生活していると、すぐに友達ができて、ホストの皆と関係よく過ごせるようになりました。交流も増えていて、ここに溶け込んでいるような感じがしています。

日本での一年の間に、私は成長していました。いろんなところに行って見て、日本に対しての理解も深めました。日本はルールを守ることを大事にしている国です。謙遜を大事にしている国です。思いやりの気持ちで周りの人を笑顔にさせる国です。こんな国に、私は住みたいと思っています。

日本での一年間の生活に鍛え上げられた今の私は、もう何の迷いもなく自分の目標が見えるようになりました。日本の大学に受かって、将来日本で就職するかもしれません。将来どんな仕事をしても、必ず自分の力を尽くして、中日関係の架け橋になって頑張っていきたいと思っています。

この一年間でお世話になった先生たち、ホストファミリーの人たち、学校の生徒たち、本当に、ありがとうございました。またいつか、会えるときに、会いましょう。そのときを、私は、いつまでも、楽しみにしています。

宇治のここが好き

YU Chenghao 立命館宇治中学校・高等学校／東北育才外国語学校
遇　城昊

私は8ヶ月間ぐらい宇治に住んでいました。この期間で宇治のいろいろなところに行って、宇治の景色を見て、宇治の食べものを食べて、宇治の友達にしゃべって、宇治の文化を体験して、宇治で生活しました。

（宇治の食べ物）

まず宇治について、みんなが知ってるのはもちろん抹茶です。私は最初宇治にきた時、毎日抹茶の食べ物を食べました。抹茶パン、抹茶アイス、茶だんご……抹茶の入ったものが全部好きです！だから、最初の1ヶ月間で私は2kgぐらい太ってしまいました。いまも、私は時々抹茶の食べ物を買って食べます。ホストファミリーからも抹茶の食べ物をもらいます。とても嬉しいです。

（宇治の高校）

私はこの一年間立命館宇治高校で勉強しました。最初の時、私は友達ができるかどうかとても心配しました。でもクラスメイトは自発的に私としゃべってくれました。だから私は今仲のよい友達が3人できました。とても嬉しかった。実は、中国の高校と日本の高校はちょっと違います。中国の高校は勉強ばかりなのでとても大変です。でも日本の高校は中国の方より楽しいです。私は日本の高校の体育と家庭科が大好きです。中国の体育は陸上、バスケット、バレーボールだけですが、私は日本にきてからソフトボール、跳び箱、ラグビー、柔道が全部できました！私の中国の高校は家庭科がありません。立命館の家庭科で僕は枕を作りました！その枕を作り終わった時、私はびっくりしました。こんな綺麗なものは私の手で作ったのか信じられませんでした。一年前の私はものを縫うことは全然できませんでした。一年前の私に比べて、私は成長しました。とりあえず、私は立命館で前にたくさんできなかったことが全部できました！

（宇治の景色）

私の故郷は瀋陽です。平原なので山が少ないです。もし山を見たかったら、車で2時間ぐらいかかります。でも今宇治でいつでも見られます！また、春になると、宇治では桜が咲きます。宇治川の近くの景色はとてもきれいです。山と川があるし、桜も咲いているし、日本の伝統的なたてものもあるし、きれいな絵みたいです！

（宇治の人）

最初、私は立命館の寮に住んでいました。寮の友たちと一緒に外で遊んだり、お風呂に入ったり、とても楽しかったです。去年の11月、私はホームステイに変わりました。ホストファミリーは三人います。お父さん、お母さん、お兄さんです。私はホストファミリーの人と一緒にいろいろなところに行きました。富山県の立山とか、本州とか、大阪のユニバーサル…全部行きました。ホストファミリーのお母さんは毎日朝起きて、私のために朝ごはんと弁当を作ってくれます。私が風邪を引いた時は夜お父さんからビタミン水をもらいました。私はとても感謝しています！学校のクラスメイトもとても親切です。私がわからない質問があったら、みんな親切に教えてくれます。宇治の人はとても親切です。

（宇治の文化）※たぶん、日本の文化です。

私の部活は剣道です。私は日本に来る前に剣道をしたかった。でも中国は剣道がありません。だから今剣道をしています。また私が一番好きな日本の文化はアニメです。これも私が日本語を習う理由です。わたしはアニメが大好きです！私が一番好きなのはBLEACHです！また私もいろいろな日本の文化を体験しました。例えば：書道、茶道などです。

1ヶ月後、私は帰国します。でも宇治の抹茶、宇治の景色、宇治の友達、宇治のホストファミリー、宇治の文化……この記憶は一生でも忘れません！僕は宇治が大好きです！

すべてに感謝------ライフ　イン　鹿児島

CUI Shuyuan
鹿児島県立武岡台高等学校／東北育才外国語学校
崔　舒淵

誕生日の時、ある友達からもらった手紙にこういうことが書いてありました：「…武台に来てくれてありがとう。茶道部に入ってくれてありがとう。仲よくしてくれてありがとう…サイちゃんと一緒にいる時間はずっと楽しくて幸せです。生まれて来てくれてありがとう。」これを読みながら、私の涙があふれてしまいました。この一年、私こそ皆にありがとう。

友達へ：

忘れられない。初めて学校に来た日、黒板に書いてある中国語とクラスメートの中国語挨拶で、私はとても感動しました。あの瞬間、皆の思いやりと優しさが私の緊張と不安を全部吹き飛ばしてくれました。暖かいおもてなしをしてくれてありがとう。私は交流するために日本に来たのに、臆病プラス人見知りで、冷たく見えたよね。そんな私にも関わらず、親切に話しかけてくれて、友達になってくれてありがとう。「明日から一緒に弁当食べよう！」と誘ってくれてありがとう。移動教室や着替えなどを一緒にしてくれてありがとう。雨が降る時、傘を貸してくれてありがとう。何もわからない私に色々教えてくれてありがとう。体育の時間、運動神経ゼロの私に「頑張れ！」と言ってくれてありがとう。よく間違える私に「大丈夫だよ！」と慰めてくれてありがとう…まだまだありがたい事がいっぱいあるんだ！（全部書くのに字数が超えるから残念。）皆のおかげで毎日の学校生活が楽しかったよ！元気100倍で優しい武台生、皆大好きよ！

先生方へ：

いつも学校行くのを楽しみながら辛いと思いました。朝早く起きて、JRに乗ってからまたバスに乗り換え、寝ぼけ眼で授業を受けるのが本当に大変なことでした。最初は授業自体も分からなくて、初めての中間考査の成績を見た瞬間、私は悔しくて耐えられませんでした。その後、先生方に本当に沢山支えてもらいました。私の提出物に書いてある「頑張れ！」「よくできました！」そしてわざわざ中国語で書いてくれた「加油！」「有進歩！」…これらが全部私に力をくれました。漢詩を読ませてもらった事で、友達との交流も増えました。そして昼休みの時、古文を教えていただきありがとうございました。わざわざ色々英語で説明していただきありがとうございました。習ってない範囲まで心配して、生物が得意な友達を紹介して下さりありがとうございました。「授業が分かりましたか？」と何回も聞いて下さりありがとうございました。教科書を一生懸命捜し、又、私のためにプリントを作って下さりありがとうございました。私のわがままで、先生方に沢山迷惑をかけて申し訳ありませんでした。そして相変わらず親切にしていただき、又、心配していただきありがとうございました。私はこれからも勉強を頑張りたいと思っています。

ホストファミリーへ：

鹿児島で食べた初昼食、私はまだ緊張と不安がいっぱいでしたが、お父さんとお母さんの優しさがすぐ私を安心させてくれました。日本で出来た家族は本当に優しいです。休日になったらいつも私をどこか遊びに連れていき、美味しい物を食べさせてくれました。陶芸、温泉、足湯、リンゴ狩り、ミカン狩り、阿蘇山、蛍コンサート…色々な所へ行って、写真もいっぱい撮らせてもらって、数えられないほどの思い出が沢山出来ました。遊びに連れて行ってもらい、鹿児島について沢山教えてもらってありがとうございました。私は方向音痴で、よく道を迷いました。いつも文句も言わず、迎えに来て、道を教えて、地図まで描いてもらいありがとうございました。料理を教えてもらい、私の料理をいつも「美味しい！」と励ましてくれてありがとうございました。私の間違えた日本語を真面目に正してくれてありがとうございました。私の騒がしい話を聞いてくれてありがとうございました。色々な人に私を紹介してくれてありがとうございました。人生の知恵を教えてくれてありがとうございました。 …家族の一員だと思ってくれて本当にありがとうございました。

この一年、本当に思い出が沢山ありました。家族皆で面白いテレビを見て爆笑した事、夜遅くまで話をした事、お姉さんたちと買い物行って、プリクラ撮った事、お父さんと美味しいラーメンを食べに行った事、お母さんに料理を教えてもらった事、文兄さんとたこ焼を作った事、智兄さんと冗談した事、菜月姉さんとご飯作りながらつまみ食いした事、涼子姉さんと中国語の勉強をして、彼氏の話をした事、子供たちと遊んだ事、誕生日の時プレゼントをいっぱいもらって、ケーキまで作ってもらって、誕生日パーティをした事・・・全部とんでもない生活の細かい事だそうですけど、私にとってはすべて贅沢な思い出です。親がそばにいないこの一年間、代わりに面倒見てくれて、私の成長を見守ってくれて、本当にありがとうございました。

最後に・・・

縁って、本当に不思議な物ですね！この縁で私は日本に来られて、皆に出会えました。そしてこの縁で皆と強く、強く結ばれました。私はもうすぐ中国に帰りますが、縁で結ばれた私たちの絆は絶対切れることはありません。私はそう信じています。ですから、「さようなら」は言いません。また日本に来るから、その時また会いましょう！じゃあ、行ってきますね！この一年間、大変お世話になった友達。先生方、ホストファミリー、そして名前も知らないけど、助けてくれた人々、本当にありがとうございました！

忘れない一年間

LI Yingchao 東京学芸大学附属国際教育学校／東北育才外国語学校
李　穎超

時間が経ち、移り変わる季節とともに、帰国の日もだんだんと近づいてきました。この一年間、本当に多くのことを学びました。喜びや悲しみ、様々な経験を通し、私は随分成長した気がします。

日本に来る前のこと、中国のいろいろな地方から集まった自分と同じ境遇の留学生がそれぞれに緊張と期待の心情を持っていたことを思い出します。そんな緊張と期待を胸に始まった日本の留学生活は予想以上に充実したものになりました。私にとって幸せなことは東京の学校に行くことになって、毎日の生活と通学に便利なだけではなく、週末にも都内のいろいろなところで大好きなショッピングできました。東京は昔から残っているものがたくさんある一方で、非常に現代的な街だと感じました。明治神宮のような古い寺がのこる一方で、新宿渋谷をはじめとするショッピング通りや、東京タワーのような先進的な建物を経済の中心としている東京の姿は深く印象に残りました。

この一年間で、私が一番名残惜しいのはやはり学校です。私の学校は国際的な学校なので普通の高校とは違い、帰国生と留学生が多く、英語を重点とした教育になっています。そのため、科目も多く、毎日忙しかったけれど、とても充実した生活を送れていると感じました。この一年間学校では二つの大きな行事、'文化祭'と'スキーの旅行'がありました。

文化祭ではたくさんの出し物があって、その中でも、私のグループはお化け屋敷を作りました。皆と一緒に暗幕をはったり、看板を作ったり、コースの配置を考えるなど様々な共同作業を通じてクラスメイトの友情深めることができました。文化祭当日には、お客様がたくさん来て、お化け屋敷を褒めてくれて非常に嬉しかったです。そして、冬のスキー旅行も忘れられず、記憶に残りました。わずか４日間でしたが、自分のスキーの技術がだんだんうまくなっていって、すごく嬉しかったです。この二つ行事を通し、たくさん友達ができて、いろいろな感動ももらえました。

ホストファミリーとの生活もまた学校での生活と違った楽しみがあります。毎週末に一緒に外出したり、文化参観をしたり、いろいろなところに行ってみて、日本の文化と風習についてもっと深く理解しました。日本の方と一緒に過ごす毎日はとても楽しく、ありがとうございますという感謝の気持ちを伝えたいです。

日本最初来てから、あっという間に帰国の日がだんだんと近づいてきます。この一年間日本の方からいろいろなことを学びました。日本人はまじめな性格を持っています。試験の前に大体全員が、１か月の期間を使ってまとめノートをつくって復習をします。その上、日本人は熱心な民族だと思っています。他の人や外国人に対して熱意を持って手伝います。最後に、日本人は団結する民族で、困難に遭ったとき、皆は逃げずに自分たちの力を合わせます。この三点について、一年間日本で生活したからこそ気づくことができました。日本の生活が本当に好きになりました。

時間が経ち、移り変わる季節とともに、日本の留学も終わることになりました。何となく、日本から離れたくない気持ちがあります。日本にいる間受けた先生方のご指導、ホストファミリーの助け、仲間の支え、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。心から感謝の気持ちを伝えたいです。この一年間は本当に充実した生活を送れました。帰国の後、日本の生活と感動を忘れずに、頑張り続けていきたいと思います。

最後になりましたが、心より皆さんの助けに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

大好きやけん～出会えてなければ～

FU Shixuan
岩田中学校・高等学校／上海市甘泉外国語中学
伏　詩宣

時間の経過は本当に早いものですね。あっという間に留学生活のゴールがもう目の前に来ました。気温がだんだん暑くなってきて、校庭に植えているクスノキも再びみどりに包まれました。正直に言うと、最初に、この小さくて愛しい町：大分に来た時はちょっと不安がありました。都会生まれの私は本当にこの田舎町を受け入れることができるかな。また、この町は私のような外国人を受け入れてくれるかなと、若干漠然としていました。

しかし、私は間違っていました。来て一ヶ月も経っていないのに、もうすでに私はこの田舎町に惚れました。青く澄み渡る空、清らかで澄みきった川、そして連綿とどこまでも続く山……すべてがこんなに新鮮で、まるでずっと想像してきた「日本流」の青春物語の始まりのようでした。それがこの一年間のスタートでした。

日本に来てから最初に感じたのはやはり日本人独特の思いやりの心でした。「日本人って本当に几帳面で繊細で礼儀正しいだな」と私はいつも感心していました。どんなに親しい友達でも、ぶっつかったらすぐに「あっ、ごめんね！」と謝るし、約束は絶対破ったりしないし…なんか人と人の関係がとても平和な感じがしました。たぶん、東京みたいな大都会じゃないから、バスや電車の中でスマホをいじる人より、小さい声でしゃべる人のほうがずっと多かったです。上海出身の私にとっても、珍しきことでした。それに、河原を散歩したら、そばを偶然通る知らない人がにこにこしながら「こんにちは」と挨拶してくれるし、道に迷って通りすがりの人に尋ねたら、目的地まで連れていってくれるし。人と人が互いに信じあって、相手のことを真っ先に考えることは私が求めっていた理想なことでした。生活ペースが忙しくて他人のことを配慮する暇がない上海に生まれた私にとって、生まれて初めて人と人の「出逢い」のすばらしさを感じました。学校のみんなも、ホストファミリーの人も、いつでも温かい笑顔で私を見守ってくれていました。そして、私は感謝の気持ちを込めて、一歩一歩と前に進みました。「みんなのことが大好きだ！出会ってよかった！大分に来てよかった！」と私は嬉しく思っていました。

しかし、この留学の「道」には、私の予想以外の悩みが待っていました。まずは日本に来て三ヶ月が経った11月のころ、学園祭などの学校行事がとっくに終わって、中間考査の復習に入る時期でした。たぶん、最初の新鮮の気持ちが下がったため、周りの人に話をかけるのが難しくなってきました。それに、こっちが積極的に話をかけていかないと、向こうは何の反応もしないことが分かりました。中国のことについて聞くどころか、私の趣味でさえ聞かなかった。私は周りに話をかけるのが怖くなって、だんだん黙りました。話をかけても、相手のノリが悪くて、逆に空気が固まるのが何よりも嫌だったからです。どうやって目の前のこの「交流の壁」を破ろうかなと悩んでいた際、同じく寮に住んでいるクラスメートが私に声をかけてくれました。その日、私は心の中に積もっていたすべての不安を語りました。あれから、あの「交流の壁」が無くなりました。クラスのみんなも寮のみんなも私に気を配って、話題の中に誘ってくれたのです。私はホッとしました。「みんなありがとう！みんなと出会ってよかった！」と私は嬉しく思っていました。これで留学生活にはもう悩みがないでしょうと思ったら、中間研修が終わってから、また新たな悩みの淵に沈んでしまいました。もうすでに半年が過ぎてしまい、残りの時間で何かやらなくては！と自覚したけど、何をやればいいのか、この一年間でいったい何を得たいのか、また目標を失ってしまいました。そして、帰国したらどうなるのか。どうやったらまた大学で日本に留学に来られるのか。帰ったあとのことを考えると、不安になってしまいます。そこで私の心にある変化が起きました。日本の高校生をうらやむ心はいつの間にか、嫉妬する心に変わり、怒りの芽も萌えました。

「私…日本に生まれたらよかったのに……」と、溜まっていたストレスと不安が爆発し、悔しくて涙が止まらなかったです。

私だって、甲子園の青空をめざし、バットを振りたかったのに！

私だって、学園祭のスタッフをやって、青春の思い出を作り上げたかったのに！

私だって、高校時代にバンドか何かをやって、ありのままの自分をこの世界に見せたかったのに！

私だって、学ランを着て、桜吹雪の中で好きな子と歩きたかったのに！

私だって…私だってそんな高校生活を送りたかったのに！なんで私が息もできないほど苦しい受験勉強だらけの青春を過ごしなくちゃならないのよ！と、私は心の中で吼えていました。私と学校の友達の間には決して超えてはいけない「一線」ができました。そして、その「一線」の向こうには、存在するわけがない、妄想が作り上げた「私」の姿がいました。私の心はまるで刃物に刺されたように痛かったです。知らなかったというより、知っていたけどずっと気づきたくなかったのです：自分が日本に一年間留学したかったのは「現実を逃避したい」という心の一番奥に隠れていた理由もあるということを。でも、そこで私は考え方を変え、自分にこう言いました：変えられない現実から逃げるより、今目の前にあるものを大切にするほうがましだ。どうせチャンスが一回しかないなら、力を尽くして、かけがえのない「一回」にしようと。その戸惑いが逆に大きな動力になりました。

大分弁をしゃべったり、畑に行ったり、有名な温泉に入ったりして、大分でしか体験できないことをたっぷり体験しました。そして何よりも、周りの人に感謝します！出会えてなければ、今の私はいないはずです。

＜メッセージ＞

ちゅうことでみんなと出会えてうれしかった。留学生活でよだきい時もあったけど、みんなが支えてくれたけん、もう一回立ち直ることができたんや。この一年間ほんとにありがとう！正直、みんなと別れることがめっちゃ嫌なんやけど…また会えるけん、再び出会う日を待っちょんよ。みんなのことがいつまでも大好きやけん！

日本での一年――新たな成長

SHU Qinxin
神村学園高等部／上海甘泉外国語中学
束　親欣

時間の流れは速いです。あっという間に、日本での一年間の留学生活はもうすぐ終わりをむかえようとしています。この10ヶ月で、いろいろな人と出逢い、よい思い出をいっぱいつくりました。

10ヶ月前に、私は「日本語がもっと上手になりたい」、「日本の文化をもっと知りたい」という気持ちで、日本に来ました。でも、10ヶ月たって、日本語が上達し、日本文化をさらに深く理解できただけではなく、より価値があるものを得ました。それは目に見えない個人的な能力、精神的な成長だと思います。

その一つは感謝の心です。

日本にいる間、たくさんの人から助けてもらいました。寂しいと感じた時、友達はいつも話しかけてくれて、悩みを聞いてくれて、私に力をくれました。学校のスピーチコンテストに出るため、先生は本番までずっと励ましてくれて、いろいろ教えてくれて、私は温かい気持ちになりました。病気にかかったときには、ホストファミリーが看病してくださったおかげで、わたしはすぐに病気の苦しみから逃れることができました。部活で、太鼓がなかなかうまく叩けなかったとき、部長は何度も何度も辛抱強くリズムや叩き方を説明してくれて、太鼓もだんだんうまく叩けるようになりました。クラスの友達は機会があるごとに、私に中国のことを尋ねて、そしていつも頑張って中国語であいさつをしてくれました。そんな姿を見ると、感動しました。こんなに多くの人が親切にしてくれたからこそ、予想していたようなホームシックにもそんなにならずに、日本での留学生活を心から楽しめました。

もう一つは自己管理です。

今回の留学で、私ははじめて親元から離れて、外国での長い期間生活することになりました。いつもなにをすべきかを教えてくれる親はいないのです。いろいろなことに自分だけの力で全てやり遂げなければなりません。自分の時間は自分で管理するしかありません。日本の宿題は中国に比べるとそんなに多くないので、特に土日には自由時間がけっこうありました。その時間をどう利用するかわからなくて、時間を無駄にしてしまうこともありました。自分はこれから何をすべきかきちんと真剣に考えはじめたのもその時からです。そう考えてみると、実はすることはいっぱいあるということに気付きました。私はそれから、部活に入りました。部活を通して、学校生活は充実し、新しい友達もできました。

日本にいる時間はあと1ヶ月半ぐらいしか残されていません。最近、何だか時間の流れはより速くなったように感じています。一ヶ月半後に別れなければならないと思うと、なんか悲しい気持ちになります。この1年間日本に留学ができて、本当によかったです。ここで、私は日本の友達がいっぱいできました。ここで、私は感謝の気持ちが学べました。ここで、私は新たな成長ができました。今回の留学を通して、以前よりもっと広い世界が認識できました。

感想まとめ

CAI Yunduo 岐阜県立岐阜総合学園高等学校／上海市甘泉外国語中学
蔡　蘊多

日本に来て、もうすぐ1年が経ちます。まるで夢のように、時間はあっという間に過ぎてしまいました。日本に来た初めての日のことは、まだ昨日起きたことのようにはっきり覚えています。

日本に来て初めての一ヶ月間は、正直不安でした。中国の高校にいたときは、だいたい友達とアニメについて話していましたが、驚いたことに、日本ではアニメを見る子がそんなに多くなかったです。だから、趣味はみんなと違って、何について話したらいいかわからないし、日本語も上手くしゃべれないし、悩んでいました。また、総合学園はちょっと特別で、生徒たちは自分で科目を選択するから、クラスで授業を受けるわけではなく、違う授業は違う教室で受けるのです。中国にいたときはずっと同じ子たちと一緒に授業を受けていて、教室を移動したことがなかったので、最初は戸惑ってしまいました。しかし、みんなは優しくいろいろ話しかけてくれたり、教えてくれたりして、私の不安を消してくれました。また、ホストファミリーの近本さんもたくさんアドバイスをしてくれました。本当に感謝しています。今は友達をたくさんできました。毎日楽しく過ごしています。日本での生活は一ヶ月しか残っていないと思うとちょっと寂しくなりますが、中国に帰っても日本の友達と連絡を取り続けたいと思います。一生の友達です！

また、日本の授業の雰囲気はとても活発です。生徒たちも授業を楽しみながら勉強しています。ある現代文の授業で、先生はみんなに「子象への印象を書いてください」と言ってプリントを配りました。私は「鼻が長い」とか「重そう」とか、いくつかの客観的な事実を書きましたが、ほかの生徒は「可愛い」、「おとなしくて友達が多そう」などの面白いコメントを書きました。子象の絵を描いた生徒もいました。このことはとても印象深いです。日本の生徒に比べて、私の考え方はちょっと堅苦しくなっているかもしれません。いつの間にか勉強を楽しむことを忘れてしまいました。テストのために勉強するではなく、勉強は自分のためだと改めて実感しました。日本の授業はだいたい中国の授業より簡単で、勉強も楽ですが、いろいろ反省させてくれました。

振り返ってみると、この1年は本当にいろいろなことがありました。楽しいこともたくさんありましたが、辛いことも全然ないといっても嘘になります。しかし、「もし一年前に戻れるなら、また日本に来ると思いますか？」と聞かれたら、答えはもちろん「はい」です。この一年間に感じたことは、たぶん中国にいるときの三年分、いや、五年分かもしれません。たくさん勉強になりました。

この一年の間に、一番自分が成長したことは「自立」です。

考えてみたら、中国にいるとき、大した悩みが何もなかったです。何かあったら、すぐ親や友達に甘えてしまって、人に頼りすぎていました。しかも自分は全然そこに気づかずに、そんなのあたりまえだと思っていました。

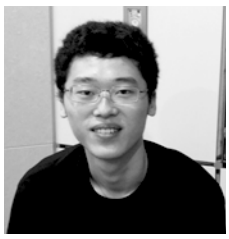
でも、日本に来たら、何かあったときは、自分で解決するしかないです。とても落ち込んで、辛い時期もありましたが、そんなときは、「いつまでもこのままでいられないよ！文句ばかり言っても何も変わらない。頑張ろう！」と、そう思いました。挫けそうになっても、頑張って乗り越えようとする自分がすごかったと思います。

きっと誰もそういう時期があると思います。これは大人になるために経験しなければならないことです。これはいわゆる、「自立」のことです。成長です。

孔子は「三十にして立つ」という名言があります。この中の「立つ」というのは「自立」のことです。これは中学校の頃に教えてもらった古文なんですけど、その時は「三十歳になってから自立するってすごいの？簡単じゃん！私、十八歳になったら絶対に自立できるもん！」と思って、全然理解できなかったです。でも、今はこの「自立」の難しさがわかった気がします。それは、誰にも頼らずに、自分一人の力で生きていくことです。

日本に来る前に、私は日中交流センターの先生にこう言いました。「日本に行きたい理由は、日本の高校生活を体験したいからです。そして、自分を鍛えたいです。自立したいです。」今の私は、この願いを叶えたと言えるでしょうか？いつか私も、完全に自立できる日がくるでしょう。その日が来るまでに、頑張り続けようと思います。

最後に、この一年間面倒を見てくれたホストファミリーの方々、先生、友達、本当にありがとうございました！



部活動について

ZHU Yuxuan
埼玉県立蕨高等学校／南京外国語学校
朱　宇軒

勉強と部活動は両立できるか

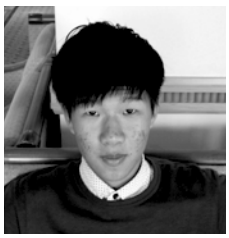
この一年間に部活動をやっている人は少なくないと思います。せっかく日本に来て、何かをやろうと考えている人もいるし、部活動によって早く人間関係を作ろうと考えている人もいるかもしれません。なんといっても、みんなはきっと部活動から貴重な経験をしているに違いありません。最初、私もそんな考えもあったし、しかも友達からの誘いにもノーと言えなかったから、バスケットボール部に入部しました。部活動をやり始めた後、毎日かなりの時間がかかることに気づきました。多分中国から来た皆さんは毎日毎日勉強ばかりしていて、勉強に十分熱中しているでしょう。部活動なんかは時間の無駄だと思っています。確かに、運動系の部活動をやっていれば、勉強する時間はほぼないと言えます。でも、部活動と休憩の時間をよく調整すれば、勉強する時間は完全にないわけではありません。私はバスケットボールを楽しんだ後、静かに勉強するのはもっと集中できるのではないかと思います。

先輩と後輩

先輩と後輩のような上下関係は中国の学校の中ではそんなに重視していません。だからこそ、私は最初緊張しました。でも、今も日本の高校の中でまだ厳しい上下関係を保っているというのは、ちょっと言い過ぎでしょう。今、優しい先輩と可愛い後輩という関係をみんな望んでいます。ただ、基本的な礼儀と先輩への敬意はいつも持っています。先輩は先輩としての優越感より責任感をもっと深く感じています。先輩は先生と後輩からの両方の視線は本当につらいことで、色々な責任を背負っていかなくてはいけません。後輩のその先輩を乗り越えたい気持ちももちろん分かっています。観客席しか座れなくて、その悔しさは言わなくてもわかるでしょう。ですから、先輩と後輩はお互いに励まし合って進めていると思います。

無言の行

特に運動系の部活動中は、部活動以外の話はあまりしないという特徴があります。表から見れば、みんなは疲れすぎて話までしたくないように見えます。しかし、実は、無言の中でみんな成長してきているのです。一年生から三年生まで、技術の成長だけではなく、精神的な成長はもっと顕著だと思います。一年の時、みんなはレギュラーメンバーに入りたいため、個性を表して、協力の面は弱いです。ところが、三年生になると、みんなはチームの一員として、自分の役割をきちんと果たして、チームワークや信頼関係などを作り上げることによって、素晴らしいチームを築いてきました。無言の行だけれども、頼りになる仲間のために、一生懸命頑張っています。



ありがとう！日本！！！

LAN Hao
岡山県共生高等学校／福州外国語学校
藍　浩

留学生活があっという間に最後になりました。

これまでを振り返るとこの一年間はほんとうに掛け替えのない一年間だと思っております。

最初北京の面接で先生に「緊張していますか」と聞かれたとき、「興奮していますよ」と答えました。その時のずっと前から日本で高校生活を体験したい、という夢がありました。その夢を抱いて面接の時興奮してしまいました。その時夢に一番近づいていると思いました。でも、面接終わってからなかなか結果来なくてダメだと思っていたとき、運命の一発電話が訪れてきました。合格の知らせでした。そのとき喜びのあまり、「前世何かいいことしたんだろう」と言いながら飛び込んでしまいました。

それから一ヶ月、期待を持って日本に来ました。最初東京で研修がありました。初めて日本に来た僕にとって、自動販売機でも車の走るところでも、なんでも目新しいものでした。一週間の研修は忽ちに終わりました。みんなと分かれてようやく僕の留学生活が始まります。

中国人の友達と別れて、やっぱり最初の一週間くらい切ない気持ちが残っていました。

留学してる学校は中国人多いので、すぐ中国人のところに入り込んでしまいました。日本人との交流は日本語の心配で、できませんでした。でも、クラスのみなさんは僕を受け入れてくれました。僕をクラスの一員と認めてくれました。昼一緒にご飯食べたり、喋ったりして、すぐ僕は日本での初めての友達ができました。洋楽が好きでだじゃれがうまい人です！

それから二、三ヶ月たって、気長に待っていた冬がやってきました。初めて雪見ました。この雪の冬、友達の家にホームステイに行きました。三日間の予定でしたが、友達のお父さんが一週間泊まらせてくれました。日本の面白いもの教えてもらったり、ノリを教えてもらったり、日本人との絆を強く感じました。でも冬休み終わって学校が始まったとき、相変わらず日本人と話すのが怖くて怖くて、なかなかその一歩を踏むことができませんでした。

その一週間後、迎えてきたのは待ち遠しい中間研修でした。友達との再会の喜びのみならず、日本人と触れ合うべきだということ分かりました。

そこでもっと日本の友達を作りたいな、と思いました。周りの人にどんどん話しかけたり、寮の友達と一緒に風呂入ったり、湯舟ではなししたりして過ごしました。これは生活でありふれたはなしなんですけど、中国人の僕にとって素晴らしい思い出だと思います。

まもなく後期に入ったのですけど後輩との触れ合いはまた楽しみになりました。

今留学生活を楽しんでいます！！！！

「終わり」は「終わり」ではない

ZHANG Tingting

三重高等学校／福州外国語学校
張　婷婷

「おはよう、ていてい！」…
「お誕生日おめでとう！やっと同じ16歳だね。」…
「優しくて素直なところが好き！」…
「ウチラはずっとずっと友達！！大好きよ！！」…
「体育祭はリレーに出ますか？…じゃ、ていていを応援するわ…」…
「大丈夫ですよ、友達だから…」…
「ていていも父さんの娘、萌と彩と三人は父さんの娘。だから、何かあったら必ず父さん、母さんに言いなさい！」…
「帰らなければ、いいなあ。。。」…
…

最近、今までみんなから私に言った話はよく私の脳裏に浮かんできます。「光陰矢の如し」という言葉は小さい時からずっと聞いていました。しかし、今まで、ずっと今までの私はまた本当にその言葉の意味をしっかり分かりました。一年間の留学生活はわずかしか残っていない、またホームステイの家族と学校の友達ともっとあっちこっちへ行きたい、もっとおりたいけど、もうそろそろ帰国の時間になってしまいました。

最初三重県に来た時、馴染みのない小さな町の独特の雰囲気と景色にとても感動し、この町の唯一無二のきれいな空より美しいものはないだろうと思います。私はこんな美しい、まるで童話の町のようなところで一年の留学生活を過ごしました。この一年間でたくさんのところへ行って、その町の独特な魅力を感じました。例えば、京都へ行った時、たくさん古めかしい建物を見て、古色蒼然とした京都の独特の味わいを添えました。奈良へ行った時、古都奈良の象徴、東大寺に行きました。世界最大級の木造古建築の大仏殿を見られて、仏から伝えての世界の真理を感じて、素晴らしかったと思いました…

本当に充実した一年間を過ごしたと思います。この一年間で絶え間なく生活のいろんなことを体験して、たくさん勉強しました。

まずは、この一年間学校でたくさん友達ができました。私は友達ができる同時に大切なことを勉強できました。この一年間みんなと一緒に過ごして、友達の長所を取り入れ、自分の短所を補います。一年前の自分よりもっと成長しました。友達と支え合ってきて私は前向きに物事を考えるようになり、さまざまな方向から物事を考えるようになりました。また、人との関係の築き方、接し方をまなび、クラスの人とも仲良くすることができるようになりました。人を信頼することは、信頼をした人も嬉しくなるし信頼された人もうれしくなることが分かりました。今後の人生の中で、たくさんの人々に、目を向け、助け合いたいです。

次に、一つ大きな収穫は勉強方法の考えについてよく改善したことです。中国の時いつも受験を目的とする教育を受けました。だから、複雑な問題があった時、困った時、その問題に直面する勇気や気持ちはどんどん下がって、なくなりました。ひたすらに方式的な答え、標準的な答えだけ求めて、自己思考の大切さを忘れました。そんな盲目的に勉強すると、何も進歩できないと思います。しかし、日本へ来てから、私の考えが変わりました。今のホストファミリーに会って、よく話をして、私は迷った時家族からいろんな助言をもらって、すごく助かりました。みんなの話から、自分をその話の含みとか意味とか理解していて、心が成長したと思います。勉強するとき、マンネリに陥らずに、たくさんの方法を試みて、最後まで自分に一番合ってるのを選択します。それに、勉強することはただ学校時代でのことだけではなく、それは一生の大事なことと思います。それに、分からない問題があったら、まず自分で調べなければならないです。もし、また無理なら、周りの人にしっかり聞いて、聞いたらしっかり覚えなければならない。この一年間、ホストファミリーのお父さんはたくさんのことわざを教えてもらいました。その中でずっと覚えてるのは「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という言葉です。その言葉からもっと他人に聞く勇気を見つけました。それは胸に響く言葉になりました。

日本に来る前、留学生活の一年を通して一番身につけたいものは日本語の上達でした。留学生活が終わる今、私が身につけたものは、ただ日本語の上達することだけではなく、みなさんとの絆だと実感しています。この一年間、周りの人達からお世話になったことを忘れず、一年間のご厚情は永く忘れずに、勉強することを続けて、恩返しをできれば、また日本に戻ります。この一年間を振り返って、自分の不足と未熟なところをしっかり意識しました。人生の目標を見失わずに、人生の長い道程で、自分のために生きます。留学生活はもうすぐ終わるけれども、この一年の終わりは本当の終わりではなくて、かえって新たな初めだと思います。新たな初めから、自分の人生の筆者として、自分の素晴らしい未来を描きます！

十六年の人生の中でみなさんと過ごした最も特別な一年を、私は決して忘れません！花火大会で華やかに光輝く花火みたいに、永く私の心の奥深くところに残ると思います。

私が変わる、世界が動く。一広島記事

JI Nannan
広島市立舟入高校／済南外国語学校
姫　楠楠

初めて日中交流センターの手紙から作文の課題をみたとき、茫然とした。紙の最初から最後まで規定されたテーマも主旨もなかったからです。それからいろいろ考えもありましたが、なぜこのテーマにしたのかは、作文を書こうとするところで、ある本が不意に視線に入りました。すでに中国に送る箱の中に入れた本でした、表紙にこういう字が書かれています。

「あなたが変わる。世界が動く。」

なんかどこかで見たかのように、どこかで聞いたかのようで、デジャヴとは言えないけど、親近感が感じられました。

この一年間のいろいろを味わいながら変わっていった私にとって、適切の極みと思いました。

昨日は県総体で、剣道部の引退試合でした。学校がある中区から、自分が住んでいる佐伯区まで、先輩のご両親より車で送ってもらいました。夜七時、西広島の海を越える高架橋を走って、空は真っ暗、少し開けているカーウインドの元に耳を傾けたら、風の歌声が微かに聞こえていました。広島に初めて来た時と同じでした。ほぼ一年前、当時広島駅からホストファミリーの家まで、佐藤先生に送ってもらったときと区別がつかないほど似ていました。そのとき橋で左右の海と空の境界線から水に照り映えるますます薄くなるネオン、目の前には、佐伯区に向いて山から数えきれない明かりが輝いてきました。

まさにあの時こそ、「広島の美しさ」を深くこころに刻みました。

変わるというのはあの時からかなと思いました。

初めて舟入高校に来たときは、言語も上手に使えない外国人の留学生として、しばらく孤独に耐えなければならない心構えをしていました。しかし、意外と、スムーズに溶け込む事ができました。

一日目から昼ごはんをいっしょに食べようと誘われました。

校舎で迷った時、知らない人が授業も遅れて目的地まで送ってくれました。

数学の授業を受けるとき、わざわざ椅子を教室の一番前から一番後ろまで机を運び、私のために、席をつくってくれました。

物理の先生も教室の一番前に席をつくってくれました。

舟入高校の活発さ、舟入高校の優しさ、そして舟入高校の生徒の一人として、私も、どんどん、活発にそして、優しい気持ちになっていきました。

学校から家まで、一時間以上の距離があります。

舟入川口町から土橋、土橋から五日市駅、五日市から八幡東小学校前。毎日帰る途中で、大体五日市北口バス停のベンチで10分から40分くらいバスを待ちます。駅上の通りから降りて右に曲がると、私がいつもいるベンチの指定席にぶつかります。

このベンチに座るときは、いつも7時くらいの部活の帰り、夏は時々夕日が遠くから届き、人々の髪を染めます。冬の時はもうすでに日が暮れて、色とりどりのネオンが輝いています。

よくそこに座っている時は、自分は佐伯区民で、広島市民という感情が心から生まれます。中国語で第二故郷という言葉がありますが、今の私にとって第二の故郷は、まさに広島市佐伯区だとおもいます。故郷というものは心の奥深く懐かしさを感じ、そして、一番落ち着き、安らぎを覚えます。きっとこの先、壁にぶつかっても、一年近く生活した広島、ここで頑張った事を思い出し頑張れると思います。それくらい広島、友達、先生、ホストファミリーを大事に思い、感謝をしています。

中間研究のとき大阪のお好み焼き店で、誰かからの一言に、広島のお好み焼きは絶対これよりおいしいって、その話を聞く瞬間に、言葉にできない幸せを感じました。人から広島の良いことを聞くと嬉しいし悪いことを聞くと悲しくなります。

愛も、感情も、大切な思い出も変わり行くものじゃないです。中学時代から一番好きなバンドGARNET CROWが作った、「世界が回るというけれど」という曲がありました。世界が回るというけれど、自分の心の孤独や臆病や躊躇いが押し寄せた私は一年かかって変わってきました。そろそろ帰国になりますが、帰国は終点じゃなくて、これからみんなももっと世界に馳せるでしょう。

世界が止まらずに回っていて、私たちもこれから変わっていきます。

でもいくら遠く離れても、この一年間育ててくれた土地愛してくれた人々とのきずなは変わりません。

至福の時はやはり愛している人より愛される日々です。

感謝をこめてさよなら

QIAO Jindi
大阪府立夕陽丘高等学校／済南外国語学校
喬　金迪

「日本の何がすき？」と問われると、なかなか答えられませんでした。何でしょう。小学校からずっと読んでる漫画か、小説か、それとも歌、ドラマ、或いは手芸、美しい和食ですか。本当にいろいろあり、難しかったです。

さすがに百聞は一見にしかず。いつも読んでいる漫画、いつも聞いてる歌、本物をみて、すごくうれしかったです。思わなかったものもありました。絶対に食べないと思った卵かけご飯、今は大好きです。猫喫茶店に行ったら、猫に嫌がられました。私が住んでいる大阪は都会なので、見るところもいっぱいあります。ホストファミリーも自由にさせてくれたから 、いろんなとこへ行きました。

私が来たとき、校長先生は「日本での一年間を楽しみにしてください。」とおっしゃいました。確かに楽しかったです。校長先生の好きな休日の過ごし方は、「生徒の活躍を見ること」です。たぶんそのおかげで、夕陽の行事はそれだけすばらしいです。文化祭の後夜祭、ダンス部のダンス、吹奏楽部の演奏、まったくプロほどうまかったです。体育祭も衣装を作ったり、ダンスの練習をしたりしました。そのとき本当に疲れました。団長が「総合優勝とらなくてもええよ、楽しく遊んでね！」と言ったが、やっぱり努力して、総合優勝を取りました。みんな一緒にできたものだから、すごく達成感があって、ほんまに嬉しかったんです。

夕陽のみんなは優しいです。ちょうど私が来たとき、文化祭の準備をしていました。劇の監督さんはわざわざわたしのためにキャラクターを作りました。そして寂しくさせないように、私を連れて難波へ遊びに行きました。クラブで茶道をやるときも、優しく教えてくれてありがとう。あの時日本語があまりできませんでしたが、二年生になって、ちょっとできたから、交流もますます進みました。「古文のなかの春の黄色い花が山吹」など、たくさんのことを教えてくれました。先生たちにも、授業の変更、領収証の取り扱いなど、授業中も私が理解できるように説明してくれて、いろいろお世話になりました。私はみんなに中国の食べ物を食べてもらい、中国の文化を広げました。

また、国際交流についてもっと理解しました。学校で留学生たちの集会で、みんなそれぞれ自分の国の面白いことを話して、いい思い出を作りました。ホストファミリーのお母さんは国際交流に熱心で、ほかの国の人とよく付き合っています。「変な外人」と自称してるフランス人、日本語が上手なモンゴル人、それぞれ特長を持っています。お母さんがくれた本を読んで、その中の一言を覚えました。「私の国籍は地球です。」文化の違いはただの表面的なもの、人性が共通のものであります。それを納得すれば、もっと広い世界が見つかります。私はお父さんとよく食事について討論します。たとえば日本の納豆、ヨーロッパーのチーズ、中国の臭豆腐、味も匂いも違うけど、どっちも発酵によっておいしくなりました。国際交流もそのようなものです。

近所の日本語教室へ行ったことがあります。そのときお年寄りの先生に会いました。日本は、昔環境が悪かった、いろいろの問題が起こったけど、みんなの努力で、今のきれいな日本になった、と教えました。先生が、「いろんなことを発見して、日本で学んだことで、もっとよい中国をつくるように頑張ってください。」と望みましたが、今一年経って、私は確かにそのようにがんばりました。

もしチャンスがあれば、また日本に戻って、ありがとうの気持ちを自分の行動で表そうと思っています。

独りじゃないさ

WANG Wenjia
横浜市立みなと総合高等学校／洛陽外国語学校
王　文嘉

あっという間に10ヵ月が経ちました。この10ヵ月の生活を通じて少しだけですが、成長し変わることができました。

最初に私は日本語が上手ではなくて、日本語を間違えると恥ずかしいと感じるので、積極的に話しかけられなかったし、日本の文化もよく分からなかったので、ずっと黙っていて陰気な雰囲気を出していたかもしれないし、学校もいづらかったです。だけど、その時、助けてくれたホストファミリーの存在は大きくありがたかったです。

晩ごはんの時、みんなでテレビドラマを見て知らないことがあったら、お父さんが先生みたいにものすごく分かりやすい説明をしてくれました。それがきっかけで、たくさんの日本のことを知りました。例えば、昔の日本で肉じゃがというおかずを作ることが上手な女の人がいい妻になれるという言い方があるらしいと聞きました。その時、私が「あー、だからお母さんが作った肉じゃががこんなに美味しいんだね」と言うと、お母さんが恥ずかしそうに笑いました。このような一つ一つの出来事で、ホストファミリーは私をはやく日本の生活に溶け込ませてくれました。そして、家族と離れた不安も消えました。

人見知りだった私にとっては、学校に通うことが不安で　どうやってクラスメートと付き合えばいいかという問題で悩んでいました。最初はただ話しかけられた時とわからない問題があった時にみんなに聞くだけで、自分もつまらなく感じられてうまく喋られなかったです。しかし、クラスメートたちは落ち込む私を感動させてくれました。

文化祭が迫っていて準備し始めた頃のことです。驚いたことに、何もわからない私にも役割を与えてくれました。放課後、文化祭のテーマの「世界」に合わせて各国の旗を作りました。一人ぼっちで静かに作っている私に、いきなり中国のことを聞いてきて、呆然としましたが、みんなの興味がある顔を見て喜んで教えてあげました。それがきっかけで、いろんな話を展開して作りながら、しゃべっているうちに、みんなと仲良くなりました。それから、人とコミュニケーションをとることが嫌だから逃げたいと思わなくなって、みんなと一緒にやることを通してクラスに溶け込むことができました。そして、調理実習前日に「ぶんかちゃん、明日調理実習だよ。忘れないでね」と書いてあるメールや、体育の授業で余った私に言ってくれた「ぶんかちゃん、私たちは三人でやろう」という言葉など今まで私の心に強く残っています。

みんなからの優しさに応えるように、自分も頑張りました。恥ずかしいと思わないで、間違ってもかまいません。みんなきっと理解してくれるから、大丈夫だという気持ちを持つことで、クラスメートとの付き合い方が変わりました。

私はきれいな言葉でぺらぺらしゃべるより、自分の気持ちを伝えて頑張っている自分の姿を見せることが大切だ、ということを学びました。

「せっかく日本に来たから、部活動を体験した方がいいよ」とよく言われましたが、部活動はつらいし、遊びの時間もなくなるというイメージがあったので、私は参加しませんでした。しかし、二年生になって私はより有意義な生活を送りたいと思ったので、部活動の見学しにいきました。三人しかいなかったバドミントン部でしたが、大きなかけ声を出したり、アドバイスをもらってフォームを直したりして最善を尽くして練習している姿は私の心を動かしました。部員の姿は私に日本人の真面目さを感じさせました。今、私は技術を身に付けるだけではなく、先輩を目指して、つらいと思うことにチャレンジして昔の自分を乗り越えようと汗をかいて努力しています。

私は学校生活のほかにいろんな体験ができました。英語が苦手だった私は友達たちと英語のプレゼンテーションに参加しました。発音を何度も直して話せば話すほどうまくなりました。優勝を取った瞬間、みんな立ち上がって「やった!」と叫びました。暖かくなった四月には、ホストファミリーと花見に行きました。和室に座って一杯の抹茶を手に持って咲いた桜を見ながらしゃべって日本の美しさを楽しみました。

桜のように短いですけど、美しかった一年がもう終わってしまいます。その一年を振り返るといつでもそばにいてくれて背中を押してくれる人がいました。だから、私は進み続けます。「どんなときも、独りじゃないさ……我等は進む、自分の意志で、しっかりと」というメロディーが私の心の中にずっと流れ続けるでしょう。

自分の道を歩む

LU Xizi
鳳凰高等学校／武漢外国語学校
盧　曦子

日本に来てから10ヶ月目になり、いよいよ留学生活が終わり、中国に帰ることになります。この一年間を振り返ってみると、時間と言うものは結構速いと感じていました。日本に来たばかりの不安や緊張、今でも覚えていました。

正直に言うと、最初の私はこれからの一年間を期待していました。ですが、だんだん日々が経つとともに、その楽しさが消え、日本に来た意味について、じっくり考えてみました。もし私が日本に来なかったら、今ではどんな生活を送っているのだろうか。

答えはありません。去年の6月に戻り、もう一回選択できると言うわけでもないし、この一年間をやり直すと言うわけでもありません。いま、出来るのは、自分で選んだ道を歩みぬくことです。

日本に来てはじめて、自分はいつ、何をすべきか分かるようになりました。

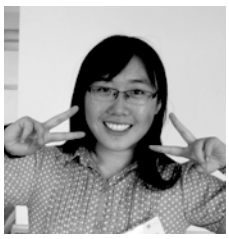
日本に来る前に、留学するか中国の大学に行くか迷っていましたが、今日本に来たら、留学する方法しかないとも言えるけれども、自分の歩みたい道になりました。そのための努力を尽くしてもかまいません。ですから、私は将来日本の大学の医学部に入りたいと思います。別に医者になりたいから医学部に入りたいと言うわけではありませんが、ただ医学を勉強したいと思っているのです。外国語で医学を勉強するのは結構難しいと思いますが、日本の医学も結構上位ですし、自分がやりたいことですから、難しくても最後までやり続けていきたいと思っています。

自分の目標を遂げるために、今日本の高校にいるうちに、日本語や生物などをちゃんと抑えて、少しでも多くのことを勉強しておきたいと思っています。

もう一つ日本に来てからずっと続けてきたことは点前です。日本に来てからすぐ、日本文化を体験してみたいので、茶道部に入りました。最初は飲むだけですが、だんだん点前にも興味がわいてきて、中間研修が終わったころ、先生の家で点前を練習することを決意しました。2月から今まで短い練習でしたけれども、薄茶だけではなく、濃茶の立て方もだいぶ覚えました。帰ったら中国のクラスメートや親族にも日本ならではの茶道をやってあげたいと思っています。もちろん、これは自分で選んだものですから、ずっと正座したせいで、足がしびれてしまうにもかかわらず、頑張って最後まで練習していました。

中国にいるときもすでに、自分の人生を自分の手に握るということを知っているけれども、いつも親がいて、何事も、親に頼めばいいと思っていたから、将来についてはあまり考えていませんでした。でも、日本に来て、一人暮らしで、いろいろなことを自分で決めないといけなくなり、大学や仕事もまだ遠いと言うわけでもないから、真剣に自分がやりたいことを考えていました。

自分がいいと思う道を歩んで行き、そのために、いつ、何をすべきかを知ること、最善を尽くすこと、それこそ人生だろうと、日本に来てから分かったのです。



成長

盛岡中央高等学校／武漢外国語学校
李　伊頡
LI Yidi

日本に来る前に、留学はこんなにつらいことだと思わなかったです。留学はこんなに面白いことだとも思わなかったです。

以前の自分は毎日順調に過ごしていました。友達がずっとそばにいてくれて、何か困難があったら親はすぐ解決してくれます。いつも自分がやりたいことを恐れなくやっています。どうなっても自分を応援してくれて、理解してくれる人がいるから安心しています。今国内にいた時間を顧みると、本当に一人になったことがなかったです。だからその時の自分も人間関係とか孤独感とか考えたこともなかったです。

アメリカの高校に行った友達は私に「留学はつらいよ」っていいましたが、その時の自分はまだあまり信じなかったです。でも本当に自分が留学しにきたら、このつらさが分かりました。

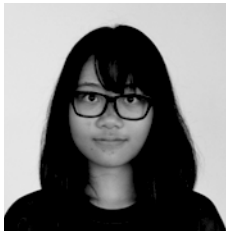
言葉が順調に行かない時、どうやって他の人に本当の自分を見せますか。自分が全く知らなかった環境の中に、どうやって慣れるようになりますか。異文化の中にどうすれば自分が特殊な存在だと思われないですか。こんなことをずっとずっと考えています。最初の三ヶ月間確かにつらかったです。自分の人生の16年間に感じたことがない孤独感をよく感じました。これも今まであったことがない大きな挑戦です。やっぱり心が重要だと思って、素直に自分の心を開いたら何となく相手に伝わると信じています。本当にそのときずっと信じてきてよかったです。

この一年間にあったことは以前決してありえないことです。以前の自分は料理が全然できなかったですけど、下宿に移動した後、毎日の弁当を作らなければならないですから料理も作れるようになりました。生活で以前親がしてくれたことは、今自分でやらないといけないから初めて親がどのぐらいしてくれたと分かりました。

この一年間もいろいろ大切な人に会いました。もしただの日本高校生活体験ならば、今のような悲しい気持ちにもならないだろう。でも本当にここの、みんなの中の一員になったら、やっぱり離れたくなくなります。友達が「日本に残って日本人になろうよ」って言った時、本当に残ろうという考えが浮かんできました。以前どこかで読んだ文章に「人生はいろいろな人との出会いである」という言葉がありました。これからもいろいろな人と出会いますけど、今、ここで、この時の君らと出会って本当によかったと思います。

一年前はまだ留学にいろいろの不安がありましたけれど、今の自分はもう怖くないです。この一年間に外の世界はどのぐらい面白いか分かりました。これからももっともっと見たいです。本当にこの一年間があってよかったです。

この一年間、私を助けをくれた人に、この一年間いろいろ教えてくれた人に、この一年間頑張った自分に、ありがとうございました。



人生はたくさんの偶然

WEI Xiaoqing

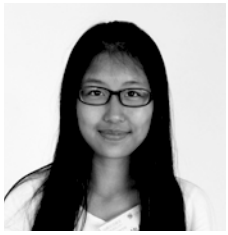
沖縄県立向陽高等高校／深圳外国語学校
韋　暁晴

「私はこんなにたくさん得られるとは思わなかった。」今、改めて日本ですごしてきた10ヶ月間を振り返ってみると、あの日あの時の思い出が一つ一つ頭に浮かび、自分でもたくさんのことができたと思えてきます。

私は沖縄県立向陽高等高校の郷土芸能部に所属しています。日本の一地方である沖縄がかつて「琉球」と呼ばれていた頃の舞踊です。恥ずかしながら、入部のきっかけは偶然で、クラスに入ってきたばかりの私のそばに郷土芸能部の部員がいて、「見学に来る？」と誘われたからです。見学した後、いいなと思いすぐに入部しました。運動部ではないけれど、毎日部活動があって、運動量もかなりありました。しかも部員のほとんどが小学校から琉球舞踊をしているので、とてもうまく、初心者の私は結構プレッシャーを感じ、大変でした。11月には県大会があり、その大会を前に練習は厳しくなりました。休日には最長6時間半も練習をして、沖縄県で第五位の成績を残すことができました。賞をもらった時、一所懸命に練習を頑張ってよかったと思いました。「これまでの辛いことはすべて報われた」と。今も部活動には毎日楽しんで参加しています。

私は寮に住んでいるので、冬や春の長期休みはホームステイをします。ホームステイ先は1人で日本にいる私に、家族のように暖かく接してくれました。いろいろなところに行きましたが、友人の実家である竹富島が特に心に残っています。観光客としてではなく、島に住んでいる人の生活を体験できました。地元の中学生と一緒に海に飛び込んだり、食用にする海藻のもずくを取ったりしました。沖縄の人達は本当に親切です。来たばかりの私にいろいろと声をかけ、一緒に行動してくれました。遠足ではスイカ割りを楽しみ、新入生歓迎球技大会では励ましあい、クラスの団結力を感じました。本当は日本の高校生で、普通に生活しているのだと錯覚してしまうほど、みんなと仲良くなることができました。最初はただ日本で生活してみたい、という思いだったのが、多くの友人達と出会い、様々な経験をし、最高の思い出を残すことができました。些細な何かが契機となり、それを生かして頑張って取り組むと、きっと新しい世界が現れます。

もうすぐここでの生活は終わりです。今は帰りたくない気持ちでいっぱいです。かけがえのない10ヶ月間の思い出が、前に進めるように私の背中を押すのでしょう。お世話になった人達に感謝します。そして、人生はたくさんの偶然でできているので、もしかしたら未来のどこかで会えるかもしれません。それを信じ、これからの人生を歩んで行こうと思います。



生命の色彩

ZHANG Qianru
奈良市立一条高等学校／深圳外国語学校
張　倩如

花々が咲き乱れる春が去って、緑いっぱいの夏がやってきました。日本には、残り一ヶ月です。

梅雨に入って、毎日雨が降り続いています。始めて一条高校に行く日も雨でした。教職員室で、教室で、講堂で、自己紹介をした時は今でもはっきり覚えています。はっきりしすぎて、先週に起こったばかりのようで、とても去年の９月のこととは思えません。その時の私は、今の私とどんな違いがあるのでしょう。

９月に第二学期が始まって、すぐに文化祭が行われました。とても興味があって、参加したかったです。でもそのときは、まだ一人の友達もいなくて、クラスのみんなが優しくて親切ですが、賑やかな校庭にいる私は、なんだか寂しく感じられました。カラフルなクラスＴシャツでいっぱいになった秋の学校は、臆病だった私には暑くて見慣れない所でした。それから、学校行事が次々と行われて、体育大会ですごく黒くなった私、落語講座で笑いすぎた私、小学校英語出前授業で緊張した私、三年生の卒業式で悲しく泣いた私、球技大会で一所懸命バスケをやった私、遠足の時ビーチでみんなとドッジボールをした私、いつの間にか日本での高校生活に慣れてきて、違和感が感じられなくなりました。紅葉する時、クラスのみんなが「日本に慣れた？」、「学校は楽しい？」と聞いてくれました。青色の梅が熟する時、「せいちゃんは留学生じゃなくて、普通にそこにおるって感じ」、「せいちゃん行かないで、卒業までおり」と言ってくれました。「行かないで」なんて言ってくれるとは思いませんでした。それを聞いた時、いつも笑顔だけで何も言いませんが、実は悲しくなって、何を言ったらいいかわからなくて、何も言えませんでした。

十一ヶ月、私のホストファミリーをやってくれた福田さんにも「さようなら」が言いにくいです。生活習慣や文化の違いで、私のわがままで、何回も不愉快なことがありました。でも福田さんは私を他人と思わないで、いろいろ話してくれました。人の考えと文化の違いを理解するのが難しいですが、頑張って乗り越えたら、さらにいい関係が築けると思います。だから、人に接する作法や外国で生活する正しい姿勢を教えてくれた福田さんと交流センターの先生方にとても感謝しています。自分を変える過程は辛いですが、お互いに理解し合う時、厳しくて辛い冬を越えて、暖かくて爽やかな春を迎えるようでうれしいです。

人生は春夏秋冬からできています。春の花、夏の草、秋の紅葉と冬の雪の色だけではなく、出会った人々にはみんなそれぞれ違う色を持っています。だから楽しいことがあったり、悲しいこともあります。出会いがあったり、別れもあります。私の生命は、この忘れられない一年間に出会った人々のため、いっそう多彩になっていくのを信じています。

やさしさに包まれたなら

ZHOU Jieyu
千葉市立稲毛高等学校／深圳外国語学校
周　潔鈺

私の十六歳の誕生日の願いは、これからの一年間は日本でたくさんいい人達と出会って、友達になって、最高の一年を過ごすことでした。誕生日の日の一週間後、国際交流基金からのDHLの国際便が届きました。ドキドキしながら、サインして、封筒を開けました。目に入ったのは「千葉市立稲毛高等学校」という名前の学校のパンフレットでした。Yahoo地図で、稲毛高という名前の点を見ながら、これから一年間通う学校はここだ、と思いました。

私は学校にいる最初の三ヶ月間、とても静かでした。恥ずかしくて自分からみんなに声かけられないから、あんまり友達がいなかったです。そして、日本に来る前から、ちょっとしかできないかもしれないけど、中国人のイメージを変えないとダメ、と思いました。日本人のイメージの中では、中国人はとてもうるさいらしいので、最初は、学校で、上品キャラにしようかなと思いました。でも、だんだんみんなと仲良くなって、キャラも変わりました。いっしょに授業についてツッコミしたり、授業が始まる30秒前にダッシュで移動したりしました。部活の時も、最初は茶道について何もわからなかった私が、後輩にいろいろ教えられるようになりました。学校生活の日々は小テストや持久走のようなつらい思い出もたくさんありますが、今思い返すと、友達がいるから、全部いい思い出になりました。

ただ、今でも、やっぱり寂しいと思っているのは、毎日、電車の中で過ごす時間です。

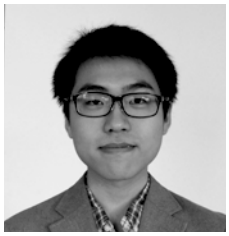
私が、東京でホームステイすることがわかったのは、北京で、先輩たちのビデオを見るとき、先生に、「これは周さんのホストファミリーだよ」って言われた時です。その時までは、ずっと、学校は千葉だから、ホストファミリーも千葉だろうと思いましたが、まさか東京とは思わなかったです。毎日片道二時間くらいかかって、東京から学校に通うのは、けっこう大変でしたが、このホストファミリーでよかったと毎日思っています。

ホストファミリーのお父さんは、料理もパソコンもとても上手です。何でも知っていて、たくさんのことを教えてくれました。お母さんは毎日友達が妬むほど美味しいお弁当を作ってくれました。着付けの先生で、着物や浴衣についていろいろ教えてくれました。お姉さんたちは優しくて、いつでも相談に乗ってくれました。本当に一年間お世話になりました。

この一年間、私がお世話をかけたのは学校とホストファミリーだけではなかったです。おっちょこちょいで、落し物をしたこともあります。気づいたのはその次の日で、もう誰かが落し物センターに届けてくれていました。道がわからなくて、交番のお巡りさんやお店の店員さんに聞くのは、いつものことでした。たくさんの駅員さんにも助けられた私は、ホームで荷物を持って、迷ってる中国人に、成田空港に行く電車を教えるようになりました。これって、もしかして、成長したことですね。

私の人生の十六年目は最高でした。今年の誕生日は帰国する日の一週間後です。これからの人生の道で、日本で出会った人々とはもう会えないかもしれませんが、日本人の優しさに包まれた一年間は一生忘れません。

一年間お世話になりました。ありがとうございます。



この出羽の地に伝わるもの

ZHENG Liangjue

秋田県立秋田北高等学校／深圳外国語学校
鄭　良珏

仰げば、尊し。俯けば、この出羽の地。

秋田に来て、わずかに一年未満だが、この土地で長い月日を送った気がする。秋田の空気の匂い、秋田の桜の季節、秋田の陽光、秋田の落ち葉の色、秋田の雪の深さなどを一つ一つ思う。思うとすぐに思い出として胸にしまえる。

以前、他人から「日本」と聞かれると、頭に浮かぶのはスカイツリーから見た東京の夜景と、とても飛び降りるなどできそうにない清水の舞台の高さだった。だが、今同じことを聞かれたら、私の頭に浮かぶのは間違いなく「秋田」だろう。秋田の景色、北高での日々など、私にとっての秋田をすべての人に伝えたい。どんな素晴らしい所なのかを教えてあげたい。

私は都会育ちで、いわゆるシティーボーイというやつだ。それに少し変わったシティーボーイでもある。都会の便利さ、テンポの速い生活を謳歌するのにもかかわらず、静かでゆっくりした生活に憧れてもいた。趣味などの必要なものは簡単に手に入るものの、静かで安らかな生活の仕方を探していた。そんな時に、日中交流センターから手紙が届き、この十一か月間の留学の行き先は「秋田県」と知った。私は不安や期待を抱きながら、海を渡って秋田にやって来た。

こんな私をやさしく包んでくれたのはホストファミリーだった。大友さんはすでに私のような長期留学生を六人、短期や別の留学生を数十人も受け入れている。世界各国からのお土産や感謝の言葉の書かれた手紙が、居間・階段・部屋に置かれたり貼られたりしている。家の中ではいつも和やかな雰囲気が漂っている。本当の家族として私を受け入れてくれ、生活の面ではいろいろお世話になった。

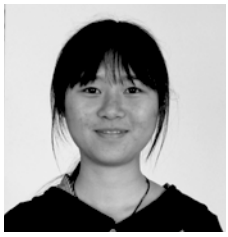
そして北高も、私をその一員として受け入れてくれた。

高校生活といえば「部活」というイメージが強いはずだ。私もそう思っている。この高校三年間で、勉強以外のことで頑張り甲斐のあるものはたくさんあるだろう。部活動はその一つだ。自分のやりたいことを貫き、成績のためだけではなく、部活動の中で人格を鍛えることが最も大事なことだと思っている。私は、そう思って弓道部に入部した。結果的には個人的な都合で退部したが、部員たちは朝の弓道場に響く的中の音や夜の弓道場から見える星の数を知っているはずだ。それを思うと彼らが羨ましい。それはきっと高校生活の思い出の中で一番輝くだろう。

私のいるクラスは二年Ｆ組だ。その中に私がいる。

私はこのＦ組に入ったことを誇りに思っている。こんな素晴らしいクラスメートと出会い、一緒にいろいろな行事に参加し、Ｆ組にいる時間はいつも楽しかった。Ｆ組での日々はまるで虹色だ。それはクラス全員の青春の欠片からできた色だ。笑う時も悲しむ時も一緒で、困難があってもみんなで乗り切った。ロッカーにはそれぞれの自分の夢を貼っているが、それを追いかける姿はお互いの目に刻まれている。

この十一か月間を振り返って、私はこの出羽の地に伝わるものに触れ、それを知ったと思う。それが私の将来をどう変えるか今はまだわからないが、秋田での思い出は私の人生に大きく関わっていることは事実だ。



一年のまとめ

LIU Xingyu

光ヶ丘女子高等学校／成都外国語学校
劉　星妤

6月になって、季節はまた夏に戻りました。来た時の天気にだんだん近付きますが、私の気持ちは一年前に比べて大きく変わりました。楽しいことも、辛いこともいっぱい体験したからです。

私は日本のカトリックの学校に入りました。その時の新鮮感と不安は今もはっきり覚えています。初めてみんなで祈る時の一斉の声を聞いて、すごくびっくりしました。毎日の聖歌、お祈り、宗教の授業など、今までの生活にまったくなかったものですが、時間が経つのにつれて、本当に当たり前になって、少し楽しんでいる気持ちにもなりました。もちろん最初は慣れなかったり、嫌な気持ちもありましたが、今は納得できました。別にキリスト教に入っているわけではありませんが、授業や先生の話、みんなとの生活から“宗教より愛を伝える”ということがわかりました。友達の間の愛、家族の愛、世界に広がる愛、光ヶ丘は知識だけではなく、愛を勉強する学校だと思っていました。

そして、この学校で、私は色々な人に出会いました。中国の高校生に比べれば、日本の高校生はもっと毎日を楽しんでいるように見えることに気付きました。私達はいつも色々なことに悩んでいますが、日本の子は、いつも笑顔いっぱいで、先生と冗談したり、写真撮影の時に変顔したり、子供のように単純で、可愛い人たちだなと思いました。これは一番最初の印象でしたが、日本の生活に慣れて、私は彼（女）達の努力の一面にも気付きました。勉強は強制されていませんが、自分で課外や補習を受けたり、遅くまで部活を頑張ったりする人は珍しくありません。寮にいたときは、テスト勉強で夜3時まで復習する人もいました。勉強も、趣味も、将来も、全て自分のことだから、頑張らないといけない、と日本の高校生たちがわかっていると思います。本当に偉いと思いました。

学校以外、ホームステイの生活もすごく充実しました。初めてのホームステイ先は田舎にあるお寺でした。小さなお寺ですが、すごくきれいで、落ち着いた所でした。ちょうど年末のおかげで、色々な行事が体験できました。除夜の鐘を鳴らしたり、寺仕事の手伝いをしたりして、本当に日本の伝統文化に浸っていました。特にお寺の中で行われたお茶会は絶対忘れません。みんな昔ながらの礼儀に則って、着物を着て、お茶を飲んだりしました。私自分もお運びさんを担当しましたから、日本人古来の礼儀正しさに実感しました。茶碗はどうやって回すのか、どうやって飲むか、挨拶はどうやって言うのか、お辞儀の姿勢や手の位置など、一挙一動に礼と互いの尊重があります。庭の雪が日の光で輝いてるのを見ながらのお菓子は本当においしかったのを今もはっきり覚えています。

二回目のホームステイは学校から一時間の電車がかかる海の近くの町です。四月になってから、勉強も大変になりました。毎日込んでいる電車に乗って、居眠りしたり、英単語を覚えたりして、本当に周りの日本人と違いがないなあといつも思いました。しかし、それでも、この一年の中で、やはり日本の生活は思ったより違いがありました。その違いを理解しても慣れないこともたくさんありました。私はいつも迷っていました。何ができるか、何をすべきか、このことから何がわかるのか、考えようとしてもなかなか結果が出ないときが多いです。日本人は毎日普通に生活していますが、日本人のまじめさや曖昧さ、礼儀正しさなど、外国人にとって、この世界に入って、日本文化と自分の国の文化の間でバランスを取るのはやはり難しいですね。

しかし、どんなことがあっても、全ては自分の大切な思い出になりました。おかげで、自分はすごく成長したと思います。これからも、人生の中できっと色々まったく触ったこともない物事に逢うと思いますから、今の生活はいい始まりになると信じています。

日本で見つけたもの

LIU Jiayuan
桜丘高等学校／西安外国語学校
劉　佳源

小さい時から、「ドラえもん」を見ることが大好きでした。ドラえもんのおっとりした性格、のび太の気が弱く、好奇心が強く、くよくよしない性格。しずかちゃんの優しい性格。この性格は私の性格に似ていて、親しみを感じたからです。日本のアニメの影響を受け、日本語を勉強するようになり、日本の本を読んだり、日本語の歌を聞いたり、歌ったりする生活に楽しさを感じるようになりました。インターネットで日本語のアニメを見ていたある日、急に日本語の発音の美しさに気づき、新大陸を発見したような感じがしました。又、女性の会話表現は可愛いらしく感じました。

日本に来た後で、日本人の先生は優しい先生で、冗談を言う親しみやすい先生ですが、私達が勉強を怠ると、震えあがるほどに厳しく注意します。その姿を見て、私は人を育てる先生の職業の素晴らしさに気づき、私も先生になり若者を育てる仕事をしたいと思うようになり、日本の大学院で勉強し、多くの日本文化を学び、先生になることが、いつしか、私の夢なりました。

日本史の授業で中日交流の歴史を学びました。一番関心を持ったのは鑑真です。鑑真は仏教を教えるために753年、6回目の渡航で日本に到着しました。渡航を決意してから11年が過ぎていましたが、鑑真は仏教を布教する夢を実現しました。私の夢は鑑真の夢と比較すれば、比較にならないほど、ちっぽけなものです。しかし、このちっぽけな夢を実現することは、多くの両国民の夢である、「中国と日本両国が兄弟のような親しい関係になり、お互いを深く理解すること」の夢の実現を、一歩前進させることになると思っています。

そして、最近は小説を読みました。最近読んだ本では、島田洋七さんが書いた「佐賀のがばいばあちゃん」と言う本が印象に残っています。

広島に落ちた原子爆弾で、島田さんのお父さんはなくなってしまいました。八歳の島田さんは佐賀の田舎の祖母に預けられ、祖母と貧しい生活が始まりました。祖母の家の傍に川があり、上流に野菜市場がありました。祖母は川に棍棒を横にして置いて、上流から浮かんできた木の枝や木片などを集め、乾かした後で薪（まき）に利用しました。棍棒には形の悪い売れない野菜も集まり、それを煮たりして食べました。島田さんは祖母から生活の工夫をして、楽観的に生活するところに幸せを感じました。

今の世の中、お金が無いと幸せでないと考える人が多くいます。私は島田さんのように、辛い環境の中でも、工夫して、明るく伸び伸びとした生活に幸せを感じる人間になりたいと思いました。

《受入校からのメッセージ》

中国から留学生を迎えて

埼玉県立蕨高等学校　教諭　寺門　由美子

埼玉県立蕨高等学校では中国高校生長期招へい事業の第二期生（平成19年度）より平成25年度の第八期生に至るまで7名の留学生を受け入れてきました。どの留学生も向学心に燃え、日本のあらゆることを学び取ろうとするその真摯な姿に感動しております。日本語をあれほどまでに流暢に話すことができるようになるには母国中国でどれほどの努力をしてきたのかと驚かずにはいられません。国の代表として高い使命感を持って日本の高校で学ぶ姿は多くの生徒たちに少なからず影響を与えたに違いないと確信しています。

第八期生の朱宇軒君は、今回蕨高校では初めての男子留学生でした。校内で実施している国際交流アンケートでたまたま２名の男子生徒のご家庭より受け入れ希望があり、快く朱君のホストファミリーとなっていただきました。朱君は留学前から中国では経験できない部活動に是非挑戦してみたいという強い思いがあったようです。校内一の長身を生かしてバスケットボール部に入部しました。最初はハードな練習メニューに体力面で心配もあったようですが、持ち前の根性と粘り強さで10ヶ月間休むことなく活動を続けることができました。　バスケットボールの技術も、日々の練習の積み重ねにより最後は練習試合に参加させてもらえるまで上達しました。精神面でも体格面でもがっしりと一回り大きくなったように思います。チームで戦う団結力、練習を通して築かれたチームメートとの絆は一生の宝物になったことでしょう。

蕨高校では毎年６月に実施されている埼玉県国際教育研究協議会スピーチコンテストの日本語スピーチ部門に留学生が出場しています。例年、日本語が流暢なこともあり中国からの留学生が参加し優秀な成績を収めています。朱君も果敢に挑戦し、結果は２位となりましたが、自分では納得のいくスピーチができたようです。外部団体の日本語ボランティアグループ「くすのき」（留学生や海外からの社会人対象に日本語指導を行っている団体で蕨高校の留学生も月に２，３回通っています）でスピーチ練習の特訓を受け本人としてはかなり自信があったようです。１位になれなかったのを相当悔しがっていたと後に「くすのき」の朱君担当の方からお聞きしました。日頃からシャイで口数の少ない朱君でしたが改めて心の奥に秘めた闘志を垣間見る思いがしました。

第二期生から第八期生、そして現在、第九期生を迎えたところです。毎年、さまざまな地域から高い目標を持った留学生が来て、蕨高校の生徒たちと交流を深めています。日本語だけでなく英語も得意な留学生が多いので、流暢な英語に授業中驚きのどよめきが起きることも多々ありました。かつて、ある男子生徒がぽっかりと口を開けて羨望のまなざしで留学生を見つめていたのを覚えています。後にその生徒は目標としていた国立大学に見事合格したのですが、おそらく当時の留学生から大きな影響を受けたに違いないと思います。

「日本は本当に空気がきれいです。」と語っていた朱君から、日本の大学受験に向けて猛勉強をしているという便りが来ました。 是非、目標を達成して再び日本に来る日を楽しみにしています。

最後に、この招へい事業が今後も日中交流の架け橋として、益々発展されますことをお祈り申し上げます。

《受入校からのメッセージ》

留学生受け入れによる教育効果

岩田中学校・高等学校　教頭　吉本　久己生

本校は、1900年に大分裁縫伝習所として創立され、その後幾度かの変遷を経て現在に至っております。1983年には、難関大学への進学を目指す中高一貫６年制の学校として生まれ変わり、2008年には、国際社会で活躍できる人材育成を目標とするAPU・立命館コースが新設されました。グローバル人材の育成を目指すAPU・立命館コースでは、国際感覚の育成や異文化コミュニケーション能力の向上等を目的に、これまでも多くの留学生を受け入れてきました。そのような中、日中交流センター様より留学生受け入れのお話しを頂き、迷うことなくOKの返事をいたしました。本コースの教育目的を達成する為には、日常的に海外の人と接触することが必要不可欠だからです。

本校が、日中交流センターから初めて受け入れた留学生は伏詩宣君（８期生）と言う、非常に優秀な生徒でした。伏君は人なつっこく、穏やかな性格の為、すぐに生徒や職員から「宣ちゃん」と親しみを込めて呼ばれるようになりました。

宣ちゃんは15歳とは思えないほど流暢な日本語を話しましたので、当初から勉強や部活動（書道部）等に積極的に取り組みました。宣ちゃんは持ち前の優れた学力と勤勉さで、本校に来て最初の定期考査で実に素晴らしい成績をおさめました。この結果に驚いた私は、もっと上を目指してもらおうと「宣ちゃん、IWATAコース（難関大学への合格を目的とする進学コース）に変わって、東大に行かないか？」と聞くと、意外な答えが返ってきました。

「いいえ、私はAPUコースが気に入っています。APU講座（プレゼンテーションの学習）や家庭科の授業が大好きです。それに、東大で有名なのは法学部ですが、私が勉強したいのは法律ではなく国際関係です。国際関係に強い立命館に行って、将来は日中交流センターで働くのが私の夢です。」私はまず、15歳の少年が日本のことをここまで調べ、しっかりした自分の夢を持っていることに驚かされました。さらに宣ちゃんの素晴らしいところは、ただ夢を語るだけではなく、実際に行動に移すことです。APU講座でも、すぐにグループのリーダーとなり、ぐいぐいと仲間を引っ張ってくれました。国際交流についても、宣ちゃんの出身校である甘泉外国語中学と岩田学園を姉妹校にしようと校長に直接交渉したり、生徒会に働きかけ、参与という臨時のポストまで作ってしまいました。このような宣ちゃんの積極性と行動力は、間違いなく本校の生徒に素晴らしい刺激を与えてくれました。

何事にも意欲的に取り組み、充実した学園生活を送ってくれた宣ちゃんですが、全てが順調だった訳ではありません。幾つかの場面で、行き違いや衝突があったのは事実です。同じ日本人同士でも、日常的に起きることです。ましてや、生まれ育った環境や価値観が違う宣ちゃんと本校生徒との間で問題が発生しても、何の不思議もありません。そして、このことこそが異文化交流を行う上で最も重要なことだと考えています。苦しいことも含め、色んなことをお互いに実体験していく中で、初めて相手とする人間の姿が見えてきます。幸いなことに、日中交流センターの招聘事業で来日した宣ちゃんも、本校のAPUコース生も、国際交流の意義と目的を熟知しております。何か行き違いや問題が起きた時には、いつも互いに歩み寄り理解し合って、必ず乗り越えてくれました。その度に、更に仲良くなっていく姿は実に不思議で、しかし見ている我々教職員も何か暖かい気持ちにさせてくれます。

今回の留学生受け入れを通して、生徒達が異文化を理解し尊重することの大切さを学んでくれたことを改めて嬉しく思っております。机上の学習では決して学ぶことのできない貴重な体験と、宣ちゃんとの思い出は、いつまでも私たちの心に残ることでしょう。

最後になりますが、このような成長の機会を与えて下さった日中交流センターの皆様に感謝するとともに、今後益々のご活躍を心より祈念しております。

《ホストファミリーからのメッセージ》

刺激的な毎日

大阪府ホストファミリー　藤本　明子

中国は恩人の国との恩師の言葉を胸に刻んで、いままで８人の留学生のお世話をさせていただきました。

１期生の韓ちゃんは、全国放送のテレビ局より取材を受けました。当時の首相が靖国参拝をした後だったので、マスコミはいじわるな質問をしてきました。彼女は、「私は日本については、これから勉強していきます。若い力で、日中の良い関係を作っていきます。」と堂々と言いきりました。

２期生の雲ちゃんは、慶応大学での１年間の留学期間中に、どうしてもホストファミリーに直接会って、お礼をいいたいと、私にも会いにきてくれました。

４期生のタンタンは、当初は友人が出来ずに悩みましたが、なんとしても中日友好の結果を出したいとの強い意志と努力で、学校で信頼を勝ち取り、たくさんの友達を作ることが出来ました。現在は京都大学在学中です。

５期生の雪ちゃんとしょうちゃんは、仲良く二人揃って、東京大学に進学しました。勉強ができるのはもちろんですが、進んで後輩の面倒を見てくれるやさしい女性に成長しています。

６期生のかごくんは、外交官志望でした。地域の日本語教室で人気者になり、美しい中日関係を作りあげますとの決意を述べてくれました。

７期生のしょうくんは、はじめは自分の力を出せず苦労しましたが、５月には北京大学の学生の通訳をしてくれました。

そして、迎えた８期生のきょうちゃん。「後生恐るべしやな。」「宇宙人とちがうやろか。」「外交官にぴったり。」「どこへ行っても生きていけるで。」と、次々と出てくるきょうちゃんへの家族の感想です。

地域の忘年会ではすばらしい竹笛の演奏を披露してくれ、中国の実りの秋の光景が、目に浮かびました。

残念ですが、それ以外の彼女のエピソードは、皆様にお伝えすることが出来ません。シークレットです。

皆がそれぞれ個性豊かです。日本へ来る目的も違います。毎年、留学生が帰国してからやっと、彼女や彼の本当の気持ちがわかってきます。時がたつにつれ、もっと良くしてあげればよかった、あの時、こういってなぐさめてあげればよかったとの思いがつのってきます。

これからも、変化する中国、その中でも若い人達と交流できる事に感謝しながら、ホットなホストファミリー目指してがんばってまいります。

《ホストファミリーからのメッセージ》

留学生受入れの感想

神奈川県ホストファミリー　土岐　治久・雪

私達夫婦が、文嘉を受け入れさせていただいたのは、短期三人の経験を経て、長期二人目の留学生として受け入れさせていただきました。留学生を受け入れるのは、私達にとっては家族が増える感覚で楽しい時間でした。

私の家内は上海人ですので、家の中でも中国語が話せるし、文嘉にとっては齢の離れた姉の感じで、私にとっては一家団欒を実感出来るいい思い出です。

文嘉は、生活面での感想として一番印象に残っているのは、朝早起きし、自分で作りたいと弁当を作って登校しているのと、帰宅後は、育ち盛り食べ盛りとあり夕食まで待てず、袋麺のラーメンを作って食べている姿が印象に残っています。特に袋麺のラーメンは豚骨ラーメンが好きで、中国にお土産に持って帰るとよく言っていました。文嘉の感想は、食事面しか思いつかず、食事以外の印象が無いのは、生活面がしっかりしていたからだと思います。食事面では、何にでも辣油をかけて味を変えて食べていました。家内の料理は何でもおいしいと食べておりましたが、私からは、何で辣油なのか不思議に思っておりましたが、日本人の醤油感覚だったのだろうと思います。夕食後も就寝時間までリビングで過ごし、友人へiPadで連絡をとっている姿が思い出されます。

文嘉が我が家に来た初日は、家内が保母さん仲間との食事会で留守にしていたのですが、テレビ局の方が取材で文嘉に同行して来ていて、たまたま地元の夏祭りに一緒に行くことができました。

また、最後の日も家内が保母さん仲間との食事会で、お迎えに来ていただきました豊川様と慌ただしく出発していった印象です。

現在引っ越しをし、手狭なマンションとなり、留学生を受け入れることが出来なくなり、少し寂しく思っている今日この頃です。

《友達からのメッセージ》

国境を越えた友達

桜丘高等学校　河野　瑞季

今回、二回目の留学生。一回目は、私自身が寮生活に慣れてなくあまり接する機会がありませんでした。ですが私も二年目になり少し余裕が出来、新しく寮長になったという事もあり、劉さんとは多くの時間を過ごしました。劉さんは、とても積極的で社交的な性格だったので分からない事があったらすすんで聞きに行ったりしていて、３か月を過ぎたころには日本語もとても上手になり１年たったころには標準語だけでなく、方言なども覚える程でした。明るい性格の劉さんは、寮内だけではなく学校でも男女問わず友達が多いような気がしました。寮では、夜遅くまでお話をしたり運動部が多いという事もあり、一緒に筋トレをしたりしました。また、クリスマスパーティーやカラオケ、買い物など色々な事を一緒にしました。気付けば国境という壁を越え、私たちにはとても大事な友達になっていました。帰国する時にはとても悲しい気持ちになりました。最後には、送別会など何日もかけて思い出を作りました。私たちも劉さんがいた事で学べたことも沢山あります。また再会できることを楽しみに、お互い頑張っていけたらいいなと思っています。

《友達からのメッセージ》

忘れられない出会い

長野県長野西高等学校　前田　惇超

９月、劉牧言くんが私の高校の１学年下に留学してきて、私の家でホームステイをしました。私と劉くんは、今でもQQで頻繁に会話しているので、離れた実感はありません。

私は高校で第２外国語に中国語を２年間勉強していましたが、長野県の中国語朗読コンテストで初出場１位になれたのは、劉くんがコンテストの日まで、毎日厳しく指導してくれたおかげです。劉くんは本当に優秀で、１学年下なのに数学や化学は私より進んでいて、英語のレベルもはるかに違いました。数学や英語も教わったことがありますが、教え方も上手で、勉強の仕方も参考になりました。

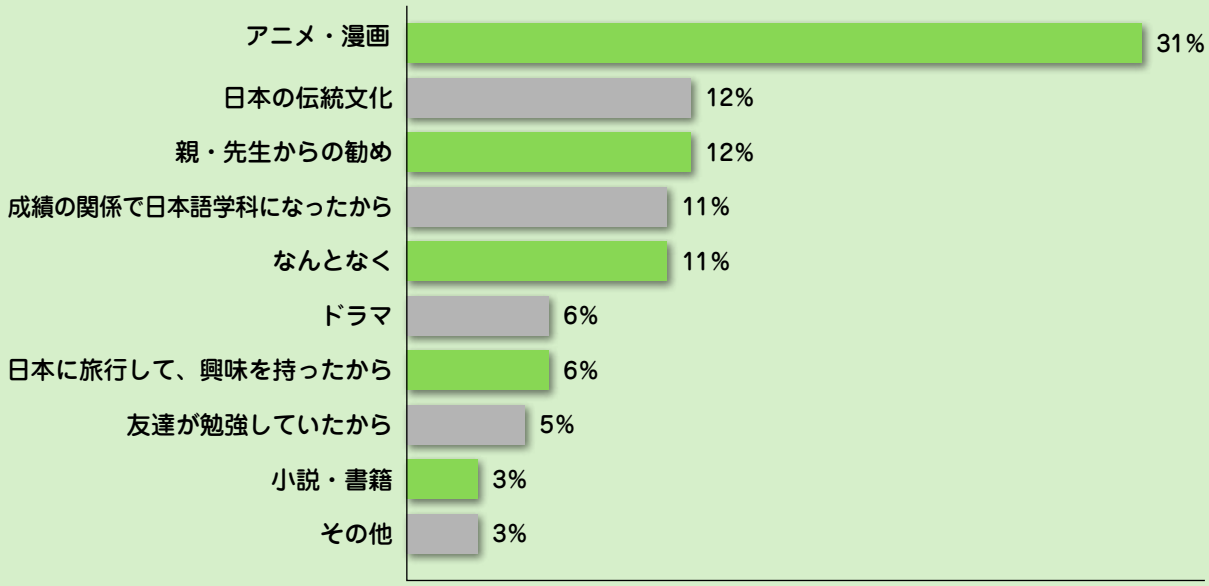
劉くんと信州大学の留学生パーティーに参加し、私たちは、中国だけでなく、ネパールやベトナム、韓国の友人を作りました。NHKに劉くんと密着取材を受けたのも、貴重な体験でした。劉くんの両親と私の家族がSNSのテレビ電話で会話したこともあります。劉くんの両親は何度もお礼を言って、私の中国語を誉めてくれました。私は家族を思う気持ちに国境はない、と改めて思いました。

現在の悪化した日中関係の中で、私たちは何が問題なのか、真剣に向き合いました。「過去の歴史は結果として正しく学び、二度と起こさない努力が重要だ。」と強く思いました。劉くんと出会えたことで、中国人の考え方、歴史、文化だけでなく、他の国にも同様に関心を持てました。彼の日本語力を頼りに過ごした日々でしたが、次は自分の外国語で、さらに世界と関わりたいです。

八期生に聞きました！

約一年間の留学生活を終えた八期生の皆さんに、さまざまな質問をしてみました。皆さんの声をぜひお聞きください！

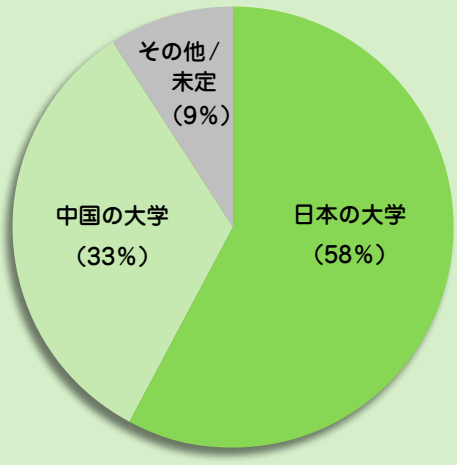
日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか？（複数回答）



※日本のアニメ・漫画の人気はやはり根強いようです！日本の伝統文化に興味を持って、茶道部や華道部などの部活に入部した人も少なくありませんでした。

高校卒業後の進路は？（複数回答）

※日本の大学への進学を考えている生徒が半数以上という結果でした。「心連心」の卒業生たちの約４割は進学・就職などで再び日本を訪れています。皆さんがまた日本に来てくれるのを楽しみに待っています！



八期生の○○ランキング

1 オススメの場所

みなさんの好きな場所を聞いてみました！王道の京都と、自分の通った学校が堂々の１位でした。

1位 **京都／自分の通った学校**

2位 **大阪／北海道**

3位 **ホストファミリーの家／海**

その他　図書館、公園、商店街、アニメ専門店、食べ放題の店、中華街など

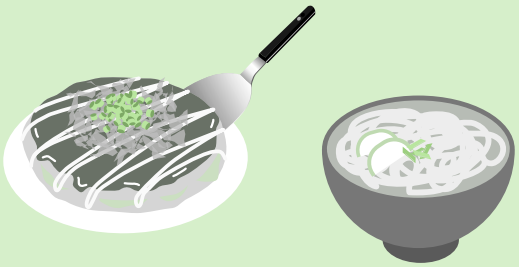
2 好きな日本の食べ物

食べ物の好みは、大きく分かれましたが、お好み焼き、たこ焼きは、３年連続で上位ランクインです。

1位 **お好み焼き／うどん**

2位 **寿司／たこ焼き／ラーメン**

3位 **お刺身／焼肉**



その他　とんかつ、うな重（うな丼）、焼き鳥、天ぷら、納豆、焼きそばなど。

★ **嫌いな日本食は？？** ★

中国の出身地の味覚や、個人的な好き嫌いによって、大きく分かれたようです。

納豆がワースト１！なんと３年連続です。

その他　お刺身、おでん、きつねうどん、お雑煮（白味噌）、さつま揚げ、シュウマイなど

3 好きなテレビ番組

- バラエティ番組が圧倒的に人気でした。意外なことに、ドラマは相棒しか挙がりませんでした。
  初めて日本のバラエティ番組を見たという生徒が多かったのでしょうね。
- 具体的な番組名ではなく、お笑い番組、天気予報という回答や、テレビ局名をあげた人もいました。

1位 **世界の果てまでイッテQ！**

2位 **世にも奇妙な物語／ニンゲン観察バラエティ『モニタリング』／満点☆青空レストラン／ザ！世界仰天ニュース／ミュージックステーション**

その他 関ジャニの仕分け∞、めざましテレビ、相棒、Qさま！！など

4 好きな作家（本）

- 東野圭吾の小説が大人気！
- このほか、好きな本として、地図、絵本、漢字字書（!?）という回答もありました。

1位 **東野圭吾** （『百夜行』、『探偵ガリレオ』など）

2位 **村上春樹** （『ノルウェーの森』、『１Ｑ８４』など）

その他 夏目漱石『こころ』、川端康成『雪国』、諫山創『進撃の巨人』（漫画）など

好きなアーティスト

アーティスト＝芸術家と考えて回答してくれた人も多く、
さまざまなジャンルの芸術家・芸能人の名前が挙がりました。
吉本新喜劇(?)と回答した人も。

1位 **宮崎 駿**

2位 **Ｘ ＪＡＰＡＮ／生田斗真／堺 雅人**

その他 ＹＵＩ、松本潤、徳永英明、ＴＡＯ、渡辺麻友、松本大洋ほか

好きな映画

好きな映画も、票が割れました。
日本にいる間にも沢山映画を見る機会があったでしょうね。

1位 **劇場版名探偵コナン**

2位 **るろうに剣心／リング／ＳＰＥＣ**

その他 魔女の宅急便、千と千尋の神隠し、天空の城ラピュタ、となりのトトロ、
ジブリ作品は全部好き！など

Q1. 日本での生活を通じて、成長したと思うことは何ですか？（複数回答）

1位 自立できるようになった

自分で考えて行動することが多く、自己管理ができるようになったようです。

2位 思いやりをもって行動するようになった

わがままを言わず、相手も事を考えて行動することができるようになったと言う声が上がりました。

3位 明るくなった、楽観的になった！

考えすぎたり、物事を深刻に捉えすぎたりするのでなく、素直に考えることができるようになったのでしょうか。

4位 他人との接し方がうまくなった

学校の先生、同級生、ホストファミリーなど、様々な年齢の人と接していく中で、自分から話し掛けたり、コミュニケーションに必要な力が培われたようです。

5位 日本語力がアップした

これはもう、当然と言えば当然ですが、日本語が分かるようになったことで、日常生活にも自信がついて積極的になれたようです。

八期生の声

Voice of Students 自分の時間をコントロールできるようになった。（日本では、自分に責任が取れるのは自分だけだから）

Voice of Students 計画通りに、色々なことをすることです。両親がそばにいないので、自分のことは自分でしなければならないから。

Voice of Students 人を思いやって、どうやって他人と交流するか、話をすべきか分かった。身の回りの友達やホストファミリーはみんなお手本です。

Voice of Students 毎日、朝自分で起きるようになり、遅刻しなくなりました。

Voice of Students 知識より、自分の考えのほうが進歩を遂げました。この一年間を利用して色々と考えて自分の将来の計画を作りました。

Voice of Students わがままでなく、相手を思って行動します。

Voice of Students 精神的に強く、楽観的になったし、他人を思いやることができるようになった。

Voice of Students 自分から、他の人に話しかけたり、共通の話題がないときにどう対応するか、を学んだ。

Voice of Students 日本語が上達して、友達作りが上手になった。料理もできるようになった。何よりも、思いやりを持つようになったことと、感謝の気持ちを持つようになりました。そして、以前より楽観的になった。

Voice of Students 異なる文化に触れて、視野が広がりました。

Q2. 留学中、一番大変だったことは何ですか？（複数回答）

1位 人間関係・コミュニケーションのとり方

年度途中からクラスに入る難しさや、何を話せばいいのか分からずに戸惑ったことが一番に挙がりました。

2位 寂しさ・ホームシック

初めての外国での生活。自分で考えて行動しなければならないことも多く、心細く感じたでしょう。友達がなかなかできなかったり、うまく話せないこともホームシックの原因だったかもしれません。

3位 日本語が分からないこと

折角話をしたいのに、相手の言っていることが分からない！来日直後はそんな悩みも多かったようです。

4位 通学時間が長いこと

中国では、通学時間はそんなに長くないと良く聞きますね。電車やバスの乗り継ぎが複雑で、通学路を覚えるのに苦労した人もいるようです。

その他　「部活動」、「ないです！」ほか

八期生の声

Voice of Students 友達を作るのが大変だった。グループに入れなくて、一ヵ月半ぐらいずっと一人でお弁当を食べていました。

Voice of Students 話題探しに苦労した。空気を読めずに皆とどう接していいか分からなかった。

Voice of Students 日本人の曖昧さが、とても頭の痛い問題でした。悪いことをしても、直接怒られなかったこともあり、誤解を生んだこともあります。

Voice of Students 日本は公共の暗黙のルールが多いので、それを学ぶ必要があった。

Voice of Students 誰も話しかけてくれなかったので、自分で悩むしかなくて辛かったです。相談していいかも分からず、一人で落ち込みました。

Voice of Students 友達の話す言葉が分からず、そのときはちょっと寂しかった。

Voice of Students 通学に２時間かかった。

Voice of Students 部活が毎日あって、土日も練習するのが大変だった。

Voice of Students 制服が冬でもスカートだったので、寒かったです。

Voice of Students 朝の電車がすごく混んでいました。降車時、間に合わなくてドアに挟まれました。

Q3. 留学中、感動したことは何ですか？

1位 お別れパーティ

学校の最後の日に、サプライズの送別会をしてもらいました。そんな声が多数でした。１年間ともに学び、活動してきたクラスや部活動の仲間たちからの、最高の贈り物でしたね。

2位 みんなの励まし

悩んでいるときに声を掛けてもらった、頑張れ！と言ってもらった。他の人が、自分を応援してくれる、そんなことに感動したという声がありました。

3位 日本で最初に受けた親切

来日したばかりの何も分からないとき、どうしていいかわからなくて不安なときに声を掛けてもらった、親切にしてもらったことも、とても心に響いたようです。

4位 誕生日のサプライズ

予想外のことに感動したようですね。誕生日をお祝いしてもらうと、心の距離がぐっと縮まった感じがするでしょう。

その他　部活でのチームワーク、車の譲り合いほか

八期生の声

Voice of Students　送別会のとき、クラスのみんながアルバムを準備して、メッセージを書いてくれた。みんなが心をこめて作ってくれたものだから、とても感動した。

Voice of Students　日本語スピーチコンテストの前、先生とクラスメートは、自分たちの放課後の時間を使ってじっくりと私の発音の矯正をして、スピーチのノウハウを教えてくれました。クラスメートと先生の励ましがとても自信になったし、みんなの親切が、日本語の勉強の原動力になりました。

Voice of Students　日本で知らないこと、迷うことがあるとき、必ず誰か親切な人が助けてくれます。中国ではみんなが自分のことを優先することがありますが、日本では、手元の仕事をしばらく置いて、熱心に助けてくれます。それが感動します。

Voice of Students　帰国のため、羽田行きの飛行機に乗ったとき、この１年の生活を思いだして、涙があふれてきました。みんなと過ごした日々は、私の人生の中で、大きな割合を占めているからです。

Voice of Students　来日直後の文化祭で、どうしていいか分からない私に、みんな親切に教えてくれました。初めての海外で全部のことを自分でやらなければならなかったけれど、そのとき突然に他の人から手伝ってもらったので、心からありがたい気持ちになった。

Voice of Students　誕生日のとき、黒板に祝福の絵を書いてくれ、みんなでハッピーバースデーの歌を歌ってくれた。みんなの気持ちもうれしかったし、自分の今までの努力が報われた気がした。

Voice of Students　バスケの部活でのみんなとのプレー、チームとの連携に感動しました。

Q4. 留学して、日本のイメージは・・・？

変わった！　57%

変わらなかった！　43%

★来日前の日本のイメージは・・・★

日本人は礼儀正しいが他人との距離を保つ/本当の気持ちを表に表さない/ルールを守る/おとなしい/景色が良い/空気がきれい/環境保護を大事にしている/魅力的な伝統文化がある/科学技術が発達している/多くの人がアニメ好き・・・etc.

八期生の声

Voice of Students 変わった

- 想像していた以上に礼儀正しい。
- 日本人は中国があまり好きじゃないと思っていたけれど、むしろ中国についてたくさん知りたがっていた。
- ステレオタイプの社会というイメージだったが、実際は活力があって可愛い国でした。
- 日本人は、仲良くなってみると、とても面白く、心から接してくれる。
- みんなおとなしいと思っていましたが、やっぱり性格は人によって違います。
- みんな、ティッシュよりタオルを使っている。（中国では、ハンカチやハンドタオルを使う習慣がなく、ポケットティッシュを持ち歩くことが多いようです。）
- 校則がとても厳しかった。
- きれいな国と思っていたが、時々、汚く使ってあるトイレがあって、びっくりした。
- 日本社会の上下関係は好きではありません。日本人からすればそれが正常かもしれませんが、私たちからすれば平等な関係のほうがいいと思います。

※ 良い方に変わったという意見が多かったですが、中には少し残念だと感じたこともあったようです。

Voice of Students 変わらなかった

- 電子機器が、とても魅力的だった。
- おいしいものが多くて、太りました。
- とても礼儀正しく、友達の間でも、おはようとごめんなさいを言う。年長者への尊敬の気持ちは、私も見習いたいと思う。
- 電車に乗るときに、きちんと並ぶ。
- お巡りさん（警察官）が、とても親切。道を聞いたりすると、とても詳しく説明してくれる。
- 日本人のあいまいさが、なかなか理解できません。
- 日本人の英語の発音・・・。（中国で学ぶ発音とは、だいぶ違うようです。）

八期生を受け入れて

受入れのご感想

中国の高校生の生活や勤勉さ、将来に対する明確な目的等、日本の高校生が刺激を受ける部分が多かった。

ほとんど日本語をマスターしていることに驚くばかりです。第二外国語を学ぶ生徒たちにとって大変刺激になっていると思います。

受け入れ側も、言語の違い、習慣の違いを踏まえて、コミュニケーションをとる大切さを学んだ。

政治的には現在日本と中国は緊張関係にあり、ややもするとお互いにマイナスイメージで入り、全てに敵対してしまいがちです。けれども今回の受入れで、お互いに分かり合える、話し合える、友達になれる、協力しあえるという経験を共有することができたので、本校の生徒たちにとっても今後の中国に対するイメージが変わったと思う。

中国語の授業でTA（ティーチングアシスタント）をしてもらい本校生徒のモチベーションアップになりました。また、例年勉強熱心な生徒を受け入れることで教員の留学生に対する印象も変わりました。さまざまな活動で日本を相対化して捉える機会になりました。

国レベルでは日中関係にはいろんな問題があり近くて非常に遠い国の印象を持たざるを得ないが、高校生レベルでは日本の高校生と何も変わらないことを肌で感じてくれたのではないかと思う。

ニュースで見る中国は一面に過ぎず、実際に接することで同じ人間であり、共通点もたくさんあるのだと知ることが国際理解への第一歩だと考えています。

修学旅行や短期プログラムでのアジア人との交流はあっても、長期のプログラムの受入れは他にはありません。お客さんではなく一生徒として接し、その人柄、国柄を知ることができる良い機会だったと思います。

中国のこと、日本のことを生徒同士で交流を図り、本校の生徒にとってもより中国についても知識を深めることができた。

留学生と日本人生徒間の異文化への理解、尊重が深まり、互いに寛容になっていく姿勢に成長や将来への希望が感じられた。

生徒について

ホームステイ先での生活や学校生活で、さまざまなことに関心を持ち、それについて、校内発表をしていました。

教員や学校の友人と日常的に会話をしていた。日本語能力が高く、ユーモアもあり、よく日本語で冗談を言ってみんなを笑わせていた。

日本人とは違った視点で物事を捉えることができるので、授業の際に日本人生徒や教員に多くの発見をもたらしてくれた。中国に対する印象も、生徒の存在によって好意的な見方に変わった。

これまでの留学生の中で、一番本格的に部活動に専念したと思います。本校の生徒も、その熱心な取り組みを見て、改めて部活動の意義を感じたのではないかと思います。

本校で協調性を学んだと思う。生徒自身がやりたいからといってすぐできるものではなく、周囲の先生や顧問、教員の協力や理解があって実現できるため、焦らず周囲の様子を見ながら待つ、周りと歩調をそろえる点などを学習・課外活動や行事等で学べたと思う。

当初、自身の考え方と日本人のそれとが異なると感じ、どのように対応すべきか悩んでいたようだが、ともに過ごしていく中で受け入れることができ、充実の留学生活とすることができたようでした。

勤勉さや、積極的に交流する姿は、これから留学をする予定の本校生徒へのすばらしい模範となりました。

部活の生徒と、クラスメイトと、日本の高校生がしているであろう普通の会話をしていた。

八期生を受け入れて

受入れのご感想

他国の文化の違いを改めて認識し、理解を深めることができた。

一人っ子である息子にとって異文化からやってきた同級生の存在は刺激的であったと思う。

人間関係を築く上で、国籍、年齢、性別等はまったく関係なく、ただその相手を尊ぶということを感じています。

ニュースなどでの中国の印象だけでなく、個人を通じて中国を知ると、印象も変わりますし、理解しあう気持ちが生まれると感じました。

家族での夕食の会話が増えてよかった。

生徒のご両親とインターネット電話（映像電話）で会話したのが良い思い出。実際に子供を預ける親の気持ち、預かる親の気持ちに国境はなく、「お願いします。ありがとうございます。」の姿に、私たちは共通するものを感じた。

子供たちが日本語以外の言葉もあるんだと理解して興味をもってくれた。

はじめて中国本土の生徒を受け入れてみて、価値観の違いを肌で感じた。一方で、大自然に感動してくれたり、若者の共通点も知ることができた。

私たち家族にとって中国は近くて遠い国という存在でしたが、生徒との交流を通して等身大の中国人が少し理解できたと思う。

生徒について

中国人へのイメージがとても偏ったものだったと反省しました。とても心優しい純粋な青年で、今時、日本人には居ないタイプ。本当に良い出会いをさせてもらって感謝しています。

日本の授業についていけるよう自分から積極的に話すよう努力していました。その姿を見て娘も影響を受けたようです。（海外に目が向き、考え方が広くなりました。）

どちらかというと遠慮がちな性格と、日本語だらけの周囲の中で、最初は無口だったが、帰国前には自分から一生懸命会話しようと努力した。

茶道部に入部して、7月の文化祭ではリーダーの１人となり後輩の面倒を見たりしていた。

日本語の上達はもちろん、冗談や話の間も日本人らしい感じになっていった。

募金活動やボランティアに関心があり、活動していた。

部屋の掃除等、積極的にするほうではなかったので、声掛けするのに戸惑いました。

一緒に生活することで、食習慣、あいさつなど日本の日常生活を学ぶことができたと思う。

日本語の難しい言い回し等も積極的に覚えようとする姿勢が見られた。日中の文化の違い等について意見を交わすことができた。

あとがき

はじめに、中国高校生長期招へい事業第八期の実施にあたりましては、受入校、ホストファミリー及び関係諸機関の方々からご支援、ご協力を賜りましたことに心から感謝いたします。

日本政府観光局（JNTO）の調査によれば、2013年に訪日した中国人は1,314,437人（対前年比-7.8％）、2014年は11月までの調査では増加に転じ、すでに2,219,300人にのぼっています。この数を多いと見るかまだ少ないと見るか、見方によって意見は分かれてくるかもしれませんが、中国の全人口からすれば、日本を実体験した人数はほんの一部といえるでしょう。

このプログラムによって日本に滞在した生徒たちは、訪日人数全体から見ればさらにごく少数ではありますが、11か月にわたり普通の日本人と実生活のなかで交流したという貴重な経験をしています。生徒たちは滞在中に出会った方々に触発されて、若い感性でさまざまなことを感得したことでしょう。

すでに帰国した第八期の生徒たちは、元の在籍校に戻り元気に中国での学校生活を送っています。この経験を生かして、これからもそれぞれの夢に向かってがんばってほしいと思いますし、日中相互理解のためのよき架け橋となってくれることを祈っています。

日中交流センター

事務局長代理　高橋　耕一郎

心連心第八期の事業には、みなさんが面接のために緊張した面持ちで北京に集まったころから係わらせていただきました。その後、途中短い期間ではありますが、担当者として、折々の連絡を担当させてもらった皆さんもいます。

その後、人事異動によって、皆さんの帰国を日中交流センターの一員としてお見送りすることができませんでしたが、全工程同行した中間研修では、一緒に料理を作ったり、カップラーメンのパッケージのデザインを考えたり、写経をしたほか、スタッフのメッセージを寸劇の形で披露させてもらいました。個別面談をさせてもらった人もいますね。すべてよい思い出です。

帰国された皆さん、毎日をどう過ごしているでしょうか？ときどき、日本の友達やお父さん、お母さん、先生方と連絡をとっていますか？これから進路はさまざまだと思いますが、日本ですごした1年間を大切にして、これからも「心連心」の関係でいてください。皆さん一人ひとりが撒いた種、築いた絆が、日本と中国をより近いものにしてゆきます。

再三にわたり担当者がかわったことにより、受け入れ校・ホストファミリーの皆様には、ご不便をおかけしましたこと、この場をお借りして改めてお詫びいたしますとともに、事業へのご協力に心より感謝いたします。

日中交流センター

前事務局次長　野田　昭彦

第８期生は私が担当者として接した最後の期となった。それも最初の２ヶ月程度。約１年会っていない。みんなはもう私のことなど忘れてしまっただろう。彼らの帰国の日、私はそんなふうに半ば諦めながら北京空港に向かった。先生！先生！と少し驚いたような声を聞いて、むしろ私が驚かされた。みんな覚えていてくれた！！嬉しさと一緒に、何か大切なことを思い出したような気がした。人と人のつながり。心のつながり。心連心。いい事業だと、手前味噌ながら実感する。今年はNHKでも取り上げてもらった。ある学術ジャーナルでも言及された。こんな時代だからこそ、溢れかえる情報の波に流されず、人と人とが真摯に向き合う交流が重要なのだろう。私は日中交流センターを離れたが、これからも彼らが蒔いてくれた交流の種に、水くらいはやりたいと思う。いつか大きな花を咲かせ、両国の心と心を結び合ってくれると信じて。

日中交流センター

前主任　後井　隆伸

残暑の厳しい八月の終わり、あどけない表情が残る八期生達が緊張した面持ちで来日しました。そんな彼らを見て、まだ何も描かれていないそれぞれの未来がこれから色々な経験で彩られていくのだ！とワクワクしつつ、今年はどんな出来事で私達を驚かせてくれるのか･･･とドキドキが止まらなかったことを覚えています。

１年を終えて、多くの生徒が笑ったり、泣いたり、様々な葛藤に苦しんだり、濃密な日々を過ごしたことと思います。受入校の先生方やホストファミリーの皆様、寮の先生方、学校の友人に支えられながら乗り越えた一年は、大きな成長へと繋がったことでしょう。皆様への感謝を忘れずに、頑張った自分に誇りを持って、世界に羽ばたいて下さい。八期生の活躍をとても楽しみにしています。また、私自身この事業に携わり、先生方やホストファミリーの皆様からたくさんのこと教えていただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

日中交流センター

スタッフ　北野谷　麻穂

今年も無事に生徒たちをご両親のもとに送り返せたことにひと安心するとともに、支えてくださった皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

留学生活は一人ひとりにストーリーがあり、全く問題ない、という生徒こそが珍しい存在です。文化に言語、考えが異なる異国で、必ず何かの壁にぶつかっては、周りの方々の支えのもと乗り越えていきます。支える方々も壁にぶつかることは少なくなく、ご苦労も大きいと思いますが、こうして本事業が継続できますのはそのような皆様がいてくださるからです。そして、もちろん、どんなことにも負けずに日本に溶け込んでいく留学生がいてくれるからです。スタッフたちも、どうしたら皆さんが良い方向に向かえるのか、どのようにお伝えしたら良くなるのか、悩み考えながら日々勉強させていただいております。

今回の留学、そして留学生の受入れに関わったことで得られた経験が、また色んな形で花を咲かせ、今生きる国際社会全体が和やかな空気となっていきますように願っております。

日中交流センター

スタッフ　豊川　佳奈

2014年４月半ばに日中交流センターに着任した私は、第八期生の皆さんとは３ヶ月間という大変短いお付き合いではありましたが、「来日した頃はどんな感じだったのだろう？」と想像がつかないほど、外国語である日本語を自在に使いこなし、日本の高校生と見違うほど日本に溶け込み、留学生活を謳歌する姿に、大変驚きました。そこに至るまでにはきっと、それぞれに悩み苦しみ、さまざまな挫折を経験したのだろうと思います。15,6歳という大人への過渡期に親元を離れ、約一年間、異国で生活を送ることが、彼らにとってどんなに困難を伴うものであったか。その勇気と挑戦に敬意を表したいと思います。第八期生の今後のご活躍を祈念するとともに、滞在中彼らを多方面より支えて下さった受入校の先生方、ホストファミリーの皆様、全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

日中交流センター

スタッフ　浅田　雅子

15，16歳という若さで、親御さんと離れ、異国に飛び込み、慣れないことや困ったこともたくさんあったと思います。皆さんが前向きに学校の先生や友達、ホストファミリー、周りの方と積極的コミュニケーションを取りながら、異国の文化を理解してきたことは皆さんの人生にとって貴重な体験だったと思います。

一年前に、北京で面接した際に、皆さんと初めて会った時のあどけない表情はいまでも鮮明に覚えています。一年間の日本の高校生活を体験し、周りの方に支えられながらも、いろんな困難を乗り越えてきたことと思います。７月に、東京で再会した時の皆さんの成長した姿はとても頼もしく感じました。

今、皆さんが帰国してすでに数か月が経ち、時間が経つのは早いと感じています。この一年間でお世話になった学校の先生やホストファミリー、出会った友達との絆が今も繋がっていると信じています。皆さんの今後のご活躍を心より祈っています！

日中交流センター

スタッフ　林　虹

発行：独立行政法人 国際交流基金
日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
TEL：03-5369-6074
FAX：03-5369-6043

Heart to Heart

国際交流基金
日中交流センター
JAPANFOUNDATION

協力企業：日本航空株式会社
株式会社資生堂
卡西欧（中国）貿易有限公司